To-Tzu-Sao Tai So
Report of 10th of Emperor Tai So

同志社大正十年度報告

同志社綱要

一智徳並行ノ主義ニ基キ教育ノ業ヲ擧グルヲ以テ本財團ノ目的トス

一本財團ヲ同志社ト稱ス

一京都ヲ以テ本財團ノ位置ト定ム

一本財團ノ維持スル學校ハ基督教ヲ以テ徳育ノ基本トス

一本財團ノ維持スル學校ハ總テ同志社某學校ト稱シ悉ク本行爲ヲ適用ス

一本財團維持資本ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ支費スルヲ得ズ

一寄附者ヨリ特別ノ費途ヲ定メ寄附シタル資金ハ決シテ之ヲ他ニ流用スルヲ得ズ

（同志社財團寄附行爲證拔萃）

目次

同志社總長報告

自大正十年四月至十一年三月

一、重要事項

戰後の主要問題が經濟問題であるやうに、同志社の主要問題も矢張經濟問題である。增俸問題、圖書の買入、校舍及寮舍の修繕、改造、新築等一として經濟問題ならざるはない。中學時代の同志社と大學時代の同志社とは實に少年と壯年との相違である。女學校も亦同樣の發展を遂げ、普通學校時代の女學校と專門學校時代の女學校とは同日に語られない。況んや男女共學を實施するに至りては、今後の同志社は近き過去の同志社に比して、まさに大同志社の規模を以て經營の方法を講究せねばならぬ。試に大正七年の同志社と大正十年の同志社とを比較すれば、僅々三年にして決算報告に於て金拾參萬壹千七百拾八圓が飛躍して金貳拾七萬壹圓となつて居る。之は大同志社の自然的發達にして今や其經營の途中にあるを覺悟して置かねばならぬ。

同志社大學は法學、文學の二部のみを以て終るべきものではなからう。又その法學、文學の二部とても、各部二科のみを以て滿足すべきものではなからう。法學部に法律科を加へ、文學部に哲學の一科を加ふることは近き將來に於て實施すべきことゝ思ふ。又同志社女學校專門學部英文科の卒業生を同志社大學の本科生となし、大學課程全部を修了し得るやう文部省より認可を受く。同志社は幸にして男女二種の學校を有するが故に、この便利を空うすることなく、大學各部に於て男女共學を實施するは、同志社敎育をして、日本敎育界に於ける先達たらしむる所以と思ふ。從つて其任務は甚だ重いといはねばなるまい。男女共學の曉には大學本科はその學生を大學豫科と女學校專門學部より收容する譯になるが故に、學生數の增加は自然の趨勢である。近き將來に於て女學生の數が大に增加するは豫期すべきである。從つて大敎室の必要も亦豫期して置かねばならぬ。

大正九年四月大學令によりて同志社大學が新設せられたるより、專門學校令によれる同志社大學は自から消滅すべき運命を持つて居るかのやうに思はれたが、

其存續の必要なるは看過すべからざるを以て、多少學則を改め、更に高等商業の一部を加へて、同志社専門學校と改稱することに致した。同志社専門學校は同志社大學の六年課程に對し、三年又は四年課程を以て學科を修了し得るやうに致し、來年度より之を實施する筈である。又専門學校に理化の一部を加へ、ハリス理化學校の寄附者ハリス氏をしてその本望を遂げしめんは吾人の切に祈る所である。同志社専門學校の將來は同志社大學と並行して、必ずその隆盛を競ふやうになるであらう。

同志社中學は生徒の増加と烏丸通電車軌道延長との結果、教室新築の必要が起つて來たのである。幸に中學生徒父兄の篤志寄附金に依つてその目的を達するに至りたるは、有志者諸氏に對し厚く謝する所である。

教職員の移動は同志社教育に取りて最も重要視する所である。久しく病床にありし法學部教授山本龜市氏の死去は同志社の爲め多大の損失である。又來年度より阿部、山口二教授の辭任は更にその損失を大ならしむるものである。幸に少壯の新進講師波多野、西島、石田、宗藤、能勢、鹽見、住谷等の諸氏を以て來年度より以上の缺陷を補充することを得るのである。文學部に至りては、周、富森の二教授を加へたるのみにて辭任の損失なかりしは喜ぶべきことである。

中瀬古氏が女學校々長の椅子を辭されたることは、一言斷つて置く必要ありと思ふ。近時女學校の發展著しく、同氏の帝大に於ける化學研究の精力と時間とを全く奪はなければ、到底兼務にては間に合はぬ趨勢を示し來つたのである。又中瀬古氏も専心一意化學研究に從事したき意志なるを以て、辭職の已むべからざる次第となつた。同氏が此の如き素志あるにも係らず、強いて請はれて女學校長の重任に當り、其面目一新の時機を逸せしめざりし其の義俠心に對しては同志社が永く忘るべからざる所である。その後任は幸にして教授松田女史が當らるゝことになつたのである。大學豫科及中學に於ても多少教師の移動ありたれども、其都度補充の道立ちたるを以て一々こゝに報告の必要ないと思ふ。

由來同志社が精神界に多大の貢獻をなしたるは、多くの人の謝する所である。今や同志社が實業界に人物を貢獻する所あるを、漸く人々の注意し始めたるは吾

々の同慶とする所である。是等の二大貢獻は今後永く其職責を果すべきは言ふまでもないが、同志社は更に一新生面を政治界に開くべきではなからうか。同志社の敎育主義は正しく今後の政治家を養成するに適合して居ると思ふ。同志社精神を有する政治家は東亞に於ても世界に於ても愈其必要を認めらるゝ時代となつた同志社が此新方面を開拓するは寧ろその遲きを遺憾とする所である。

要するに同志社の經濟狀態に就いてはその膨張の甚しきが故に、校内校外甚だ氣遣いたる所なるが、理事と維持會との助力により、同志社創立未曾有の豫算を實施するを得たるは、厚く理事及校友の諸氏に謝する所である。同志社は大人たるべく生れたのである。前途如何なる障碍起るとも、過去に實驗したる障碍ほど大なるものはなからう。よしや之れありとするも之に打ち勝つ所の能力も亦次第に增加しつゝある。同志社は大人となるべくその生長すべき所まで生長せねば止まないのである。創立時代同志社の上に降りたる神恩は永く同志社の上に留りて火柱たらんこと、吾々の信じて疑はない所である。

二、記事摘要

大正十年

四月十一日　中學及女學校始業式を行ひ第四十七學年を開始す。大學各部は同十二日始業式を擧ぐ。

四月廿一日　女學校創立記念式を行ふ。

五月十三日　江州石山瀨田川筋に於て春季水上運動會を催す。

五月廿四日　中學生徒定員を八百名に增員の件文部大臣の認可あり。

六月廿五日　女學校に於て地久節祝賀式を行ふ。

九月十日　中學第二學期の授業を始め、大學各部及女學校は同十二日より授業を開始す。

九月十五日　臨時理事會を開き本社創立五十年記念事業に關する件其他の事項に就き協議す。

十月十四日　本社校庭に於て秋季陸上運動會を擧行す

十月二十日　大學豫科新敎場の定礎式を擧行弘風館と命名す。本館は木造二階建にして總建坪九十九坪七合五勺敎室八個、敎授室一個を有す。

十月卅一日　天長節祝賀式を擧行。

十一月廿九日　本社校庭に於て創立第四十六回記念式

を舉げ、若王子山頭に於て故デビス博士の建碑式を行ふ。

十二月二日　洛西嵯峨方面に於て中學生の野外發火演習を行ふ。

十二月卅日　弘風館新築工事竣成す。

大正十一年

一月一日　新年祝賀式を擧行す。

一月九日　大學各部、中學、女學校各部第三學期の授業を開始す。

一月十八日　定時理事會を開き大正十一年度收支豫算案、創立五十年記念事業に關する件、理事監事補缺選擧の件其他の事項を協議せり。

二月一日　大學豫科敎場に使用の舊圖書館建物の館名を有終館と命名す。

二月十一日　紀元節祝賀式を擧行す。

三月四日　中學生徒定員を九百名に增員の件文部大臣の認可あり。

三月十日　第四十七學年卒業式を擧行し、大學神學部中學、女學校各部の卒業生に對し卒業證書を授與し若林京都府知事及校友神谷卓男氏の祝辭あり、式後講武館に於て理事、職員、校友及卒業生一同會食す

三月三十日　同志社大學學則に修正を加へ大學各學部入學有資格者中へ同志社女學校專門學部英文科卒業者の一項を追加の件文部大臣の認可あり。

三、學生及卒業生

本學年に於て新に入學せし學生生徒數は

大學豫科　二百四十名　大學神學部　六名
大學法學部　六名　大學文學部　四名
中　學　二百五十二名　女學校專門學部百十七名
女學校普通學部百五十五名
合計　七百八十名

にして各學校に學籍を列したる總人員を擧ぐれば

大學豫科　五百二十六名　大學神學部　二十四名
大學法學部二百七十八名　大學文學部　二十名
中學　九百二十名　女學校專門學部二百七十五名
女學校普通學部五百四十九名
合計　二千五百九十二名

を算す。而して學年末即ち三月卒業式前に於ける各學校學生生徒現在數は左の通りにて、即ち前學年に比し百七十九名の增加である。

大學豫科　四百七十二名　大學神學部　二十名
大學法學部二百四十六名　大學文學部　十六名
中　學　七百九十五名女學校專門學部二百十六名
女學校普通學部五百十五名
　合計　二千二百八十名

本年度の卒業生は大學神學部八名、大學法學部政治科二名、大學法學部經濟科十名、大學文學部三名、中學八十一名、女學校專門學部四十名、女學校普通學部三十八名、合計百八十二名である。

四、理　事

一、前學年末を以て校友選出理事に當選せし山本美越乃氏四月一日より就任。

一、理事會選出理事兒玉亮太郎氏十月二十五日永眠。

一、校友選出理事（同窓會員選擧）松本亦太郎氏一月七日辭任。

一、常務理事の改選を行ひ三宅利平、中村榮助、ペッドレー、津下紋太郎、伊庭菊次郎、山本美越乃六氏當選、一月十八日就任。

一、理事會選出理事の補闕選擧を行ひ小林正直氏當選三月廿九日就任。

一、校友選出理事（同窓會員選擧）の補闕選擧を行ひ竹内梅氏當選、三月廿九日就任。

五、職　員

本社各學校職員本學年度末現在數は

本　部

總　長	一名	主　幹	一名
宗敎主任	一名	主　事	二名
書　記	三名	事務囑託	三名
校　醫	一名		

大　學

大學長	一名	名譽敎授	二名
部　長	二名	主　任	二名
豫科長	一名	敎　授	二六名
助敎授	四名	豫科敎授	一五名
助　手	四名	學生監	二名
幹　事	一名	講　師	五〇名
事務囑託	一名		

中　學

中學長	一名	敎　員	二七名
生徒監	一名	囑託敎員	三名
書　記	二名		

女學校

校長	一名	教授	一三名
教員	二一名	生徒監	二名
講師	二三名	囑託教員	七名
書記	二名	事務囑託	一名

圖書館

館長事務取扱	一名	司書	二名
事務囑託	五名		

合計　二三五名（内兼任五〇名）

本年度中に於ける職員の異動左の如し

本部

一、喜多一二郎氏に事務囑託（九月二十日）辭任（二月廿八日）

一、中西淑夫氏に同　上（九月二十日）

一、秋山萇造氏に同　上（十一月一日）

大學

一、豫科講師石原淳太郎氏の大學寮務主任兼任を解き兼大學寮務委員兼食堂監督囑託（四月一日）兼職辭任（七月十一日）

一、法學部教授中川精吉氏に法學部長を委囑（四月一日）

一、栗生武夫氏法學部教授に任す（四月一日）

一、法學部講師兼大學學生監高木庄太郎氏法學部助教授に任し兼大學學生監兼大學寮務委員囑託（四月一日）兼職辭任（十月十八日）

一、中治武二氏に法學部講師委囑（四月一日）

一、石田秀一郎氏法學部助手に任す（四月一日）

一、宗藤圭三氏法學部助手に任す（四月一日）

一、周再賜氏文學部助教授に任す（四月一日）

一、文學部助教授兼豫科講師石原質氏豫科教授に任し兼文學部講師囑託（四月一日）

一、豫科講師本田成之氏に兼文學部講師を囑託（四月一日）兼職辭任（三月卅一日）

一、文學部講師濱田與助氏文學部助教授に任す（四月一日）

一、成瀨清氏に文學部講師を委囑（四月一日）辭任（八月卅一日）

一、田中秀央氏に文學部講師を委囑（四月一日）

一、豫科講師杉山茂氏豫科教授に任す（四月一日）辭任（三月卅一日）

一、木畑浩四郎氏に豫科講師囑託（四月一日）豫科教授に任す（九月十五日）

一、高山義三氏に豫科講師委囑（四月一日）辭任（三月卅一日）

一、法學部教授山本龜市氏死去（四月九日）

一、末高晋氏文學部助手に任す（五月一日）辭任（十月廿八日）

一、小國泰輔氏法學部助手に任す（六月一日）死去（十月七日）

一、法學部講師石川興二氏辭任（八月廿二日）

一、文學部助教授本宮彌兵衛氏文學部教授に任す（九月十二日）

一、豫科講師菊川輝太郎氏豫科教授に任す（九月十五日）

一、林久男氏に文學部講師を委囑（九月一日）辭任（三月一日）

一、豫科教授末光信三氏兼大學學生監に任す（九月十九日）

一、富森京次氏文學部教授に任す（十月十二日）

一、鷗見清氏大學學生監に任し兼大學寮務主任兼總長秘書事務を囑託（十月十八日）總長秘書辭任（三月卅一日）

一、沖鹽信男氏文學部助手に任す（十一月一日）
一、豫科教授久保正夫氏辭任。但來學年より講師として授業を繼續す（三月卅一日）
一、法學部敎授阿部賢一氏辭任（三月卅一日）
一、法學部敎授恒藤恭氏辭任。但來學年より講師として授業を繼續す（三月卅一日）
一、法學部敎授山口正太郎氏辭任（三月卅一日）
一、中學敎員三輪源造氏豫科講師兼任を解く（三月卅一日）
一、中學敎員金居信雄氏同上（三月卅一日）
一、中學敎員鹽瀬千治氏文學部講師兼任を解く（三月三十一日）
一、文學部敎授エフ、エー、ロムバード氏豫科講師兼任を解く（三月卅一日）
一、文學部敎授石田憲次氏同上（三月卅一日）

中學

一、藤野與惣太郎氏敎員に任す（四月一日）
一、書記藤田萬右衞門氏中學敎員に任す（四月一日）
一、福原勤之氏に中學授業囑託（四月一日）中學敎員に任す（九月五日）
一、事務囑託水野見靜氏書記に任す（四月一日）
一、田畑昇太郎氏に中學授業囑託（四月一日）
一、渡里森藏氏に中學授業囑託（四月廿二日）中學敎員に任す（九月五日）
一、囑託敎員遠藤操氏辭任（七月卅一日）
一、敎員田中秀武氏辭任（八月廿二日）
一、鈴木八郎氏中學敎員に任す（九月五日）
一、豫科敎授吉岡義睦氏に兼中學授業囑託（九月五日）兼職を解く（三月卅一日）
一、リーヅ、ギューリック氏中學敎員に任す（九月五日）
一、田中愛之助氏書記に任す（九月五日）
一、理科助手畑野房太郎氏辭任（十二月十五日）
一、金矢民壽氏に理科助手囑託（一月九日）辭任（三月七日）
一、敎員兼生徒監前窪勝之助氏の兼職を解く（三月卅一日）

女學校

一、山本一清氏敎授に任す（四月一日）
一、中村艷氏同上（四月一日）
一、囑託敎員淺居ちか氏敎員に任す（四月一日）
一、囑託敎員佐藤たい氏同上（四月一日）辭任（三月卅一日）
一、石居惠美氏同上（四月一日）
一、塚本乙女氏同上（四月一日）
一、末光信氏同上（四月一日）
一、林三重子氏同上（四月一日）
一、中村チカ氏同上（四月一日）
一、宮川增世氏同上（四月一日）
一、土倉廣氏同上（四月一日）辭任（三月卅一日）
一、平林みれ氏に普通學部授業囑託（四月一日）辭任（七月卅一日）
一、越智千代子氏同上（四月一日）
一、中井キヌ氏同上（四月一日）

一、鈴木信太郎氏教授に任す(五月一日)
一、講師明田八重氏辭任(五月廿三日)
一、教授藤井乙男氏辭任(八月卅一日)
一、吉澤義則氏教授に任す(九月十二日)
一、有川武彦氏に專門學部講師委囑(九月十二日)
一、寺崎頁策氏に同上(九月十二日)
一、中島りョウ氏に普通學部授業囑託(九月十二日)
一、校長中瀨古六郎氏辭任(一月七日)
一、教授松田道氏校長兼教授に任す(一月七日)
一、信原三穗惠氏教授に任す(二月一日)
一、教員藤田靜氏辭任(三月廿二日)
一、法學部教授中島重氏の專門學部講師兼任を解く(三月卅一日)

圖書館

一、事務囑託郡山俊一氏辭任(四月三十日)
一、司書字田末繼氏死去(六月廿三日)

六、留學生

本年度に於て新に在外研究員規程を制定し大學教授の海外留學に關する內則を設け、法學部教授今中次麿文學部教授園頼三兩氏に歐洲留學生を命じた、兩氏共來學年初に於て出發の豫定である。本年度の內地研究生は法學部教授中島重、今中次麿、山口正太郎の三氏であつた。

米國留學中の富森京次氏はエール大學を卒へ更にシカゴ大學に於て神學研究中なりしが十月歸朝、第二學期より神學部教授に就任教鞭を取ることゝなつた。法學部講師河原政勝氏は倫敦ミッドル、テンプルに於て英國法を研究中である。

七、社友、校友

社友侯爵大隈重信、渡邊千秋、田中源太郎の三氏本年度に於て逝去せられた誠に哀惜の情に堪へない、茲に謹んで本社の事業に對する三氏の功勞を深謝し、併せて弔意を表する次第である。學年末に於ける現在社友總數は五十六名である。

校友總數は三千三百七十六名にして其內譯校友會員二千六百四十六名（內推薦入會者三百七十名）女學校同窓會員七百參拾名(內推薦入會者七十九名)である。

八、來賓及講演

本學年に於ても亦內外知名の士の本社を訪問されたる者多數ありしが就中最も著名なる人々を擧ぐれば佛國より答禮使節として來朝せしジョッフル元帥及夫人一行、本社女學校ゼームス館及び其他の寄附者エー、シー、ゼームス氏夫妻一行、米國傳道會社總幹事バー

トン博士一行を始とし、第十六師團長志岐中將、米國陸軍砲兵少將クロージアー氏、米國知名の病理學者ピアース博士、中華民國敎育家視察團一行等である

各學部に於ける科外講演の重なるものを擧ぐれば

學部	月日	演題	回數	氏名
大學	自四月十三日至同廿八日	バイロンに就て	六回	有島武郎氏
同	四月廿六日	猶太人の世界顚覆陰謀說に就て	一回	吉野作造氏
同	四月廿七日	最近の外交問題	一回	田川大吉郎氏
同	五月廿八日	國際聯盟理事會及英國議會見物を中心として	一回	木村清松氏
中學	同	神の人	一回	同氏
同	六月十一日	精神生活の發展	一回	賀川豊彥氏
大學中學	六月十六日	生活の設計者	一回	西村伊作氏
同	九月廿一日	巴里會議より華府會議まで	一回	加藤直士氏
大學	自九月十七日至同二十日	國際政治の基礎(政治、經濟、倫理)	三回	ダッチャー敎授
女學校	十月五日	社會衞生に於ける女子の務に就て	一回	ミス、バイダ氏
同	十月十日	ラヂウムの發見に就て	一回	ドクドル、セービン氏
同	自十月十日至十一月七日	戰後の國際問題に就き	四回	末廣重雄氏
大學	十月十八日	最近支那に於ける思想の傾向	一回	清水安三氏
大學	十月廿八日	華府會議と太平洋の將來	一回	內ケ崎作三郎氏
同	自十月廿六日至十一月一日	ファストとメフィスト	四回	阿部次郎氏
同	自十月二十八日至十一月十一日	アインスタイン相對性原理解說	三回	山本一淸氏
女學校	十一月二日	婦人の國際的奉仕	一回	千葉豊治氏
大學中學	十一月三日	最近の日米關係	一回	同氏
大學	同十一月七日 八日	軍備問題、勞働問題	二回	江木翼氏
同	十一月十二日	國際關係の支配する二種の思想	一回	吉野作造氏
同	二月廿二日	近東事情に就て	一回	リンコルン ウハルト氏

九、德育及宗敎

基督敎を以て德育の基本とすといふ同志社綱領の實現は容易の事でない。大學、中學、女學校に於ける朝拜は形式に流るゝことなく、同志社の精神敎育に貢献するもの少からずと思ふ。毎朝七時四十分より八時まで中學の生徒は全部公會堂に充ち溢れ、禮拜を執行するのであるが、何等の命令もなく、各自秩序的に着席し、又秩序的に退場する狀況は同志社中學の花といつてよからう。土曜日は更に三十分を延長して、修身講話を爲し、又各級を貫き、學課として基督敎倫理を敎授して居るのである。女學校の生徒は毎朝體操場に集

るが、此所も會場狹隘にして充ち溢る、又聖書は正科として之を教へて居るのである。大學生の爲めに毎朝神學舘に催さる禮拜に至りては學生の隨意にて、會衆五十名內外に過ぎざれども、教授各自が經驗せる眞理の結晶を眞劍に吐露するは、志道者の心を啓發することと少くない。此外學生の各種自治團體があつて眞理の考究に餘念なきは喜ぶべきことである。豫科教場に於ける德育に關しては倫理の講義を以て三學級を貫通して居る。獨り大學本科に於て之れなきは缺陷かと思ふ早晩必ず補充の道が立つであらうと豫期する。同志社教會は本社の精神教育に多大の關係を有す。そが自治團體たることは本年に入りて愈明確となり、本社の助力を受けずして、岸田教師を招聘し、自給自治の實を擧ぐるに至つた、之は教會存立以來實に始めての出來事と思ふ。今後教會の活動が如何に多く同志社の精神教育に資する所あるかは期して待つべきである。同志社基督教青年會は教會に比すれば微力なれども、之も相當に面目を一新し來る氣勢を示しつゝある。新島先生の母校アモルスト大學の第四學年生壹ヶ年又は貳ヶ年を期して次き〳〵に來るそうであるが、必ず青年會を介して同志社學生の爲めに盡すことゝ期待して居る。

十、寄宿舍

男子の寮舍は北寮、東寮、西寮の三寮に區別されて居る。北寮を中學に當てゝ中學寮となし、こゝに約百四十名の生徒を收容す。近年中學生の過半は京都府下の家庭より來るが故に、勢ひ通學生が多數を占むるやうになつた。寮舍生の多數は他府縣人の子弟である。東寮は豫科生の爲めに之を當て、豫科寮としたのである。豫科生約六百名の內僅に約七十名を收容し得るので、その他の多數は下宿して居るのである。西寮に至つては一寮を神學生寮となし、他の一寮を大學本科寮となす。此大學本科寮の收容力は僅に二十名位に過ぎない。寮舍の不足は同志社精神教育に大關係を有す、大學豫科寮新築の計畫一年中の宿題である、何分多額の費用を要するが故に未だ新築の運びに至らない。女子の寮舍は普通、專門、豫科の三種に分かる。女子には一切下宿を許さないが故に、寮舍の必要は女學校に於て最も切迫して居る。室町通武者小路下ル東側、久しく女子青年會に貸與したるものと外壹棟を豫科寮とな

し、こゝに約五十名を收容するを得る。之は一時の急場を凌いだまでのことにて決して永久の設備ではない寮舍の新築は中學、女學、大學、大學豫科を通うしての要求である。此要求は年一年と切迫を告げつゝある
寮舍に於ける訓育は本社の重視する所であるが、就中中學及豫科の二寮舍に於ける訓育は最も重視されて居る。然れどもその成績の望むが如く擧らざるは甚だ遺憾とする所である。食堂に至りては中學の食堂は理想に近いのであるが、大學の食堂は賄方その人を得ず一ヶ年間の苦心も未だその目的を達するに至らざるを遺憾とする。

十一、圖　書

本年度に於ける圖書館所屬寄贈圖書六百七十三冊(內和漢書三百七十六冊、洋書二百九十七冊）購入圖書六百三十三冊（內和漢書五百八十七冊、洋書四十六冊）合計千三百六冊にして現在總數は四萬八千四百參冊に上れり。

外に研究室へ購入又は寄贈を受けたる分二千七百七十冊なり。

普通文庫	三一、〇一八冊
新島文庫	三、八二六冊
植木文庫	一、〇四五冊
小宮澤邊記念文庫	六、一六五冊
森田記念文庫	七六九冊
フリント文庫	二六〇冊
校友文庫	三八二冊
愛山文庫	三、五六八冊
三宅文庫	一、三七〇冊
計	四八、四〇三冊

河原林檉一郎、大石七郎、大賀壽吉、山本龜市、コツブ、ラーネツド諸氏の寄贈書は別表の通り實に多數であつて、その中には支那、印度、新英國基督敎起原研究等には無くてならないものがある。河原林氏の寄贈による獨逸原書の參百五十冊は獨り圖書館及研究室を豊富にするのみならず、大學昇格の際文部省に約し置きたる獨逸書の一部を補充するものにして本社の負擔を輕減したるもの少々ではない。

十二、學友會及體育

學友會は中學に於てはその部門を十五部に分ち、

大學にては十三部に分ち、各部銘々その勇ましき活動振を示しては居るが中にも著しく花々しき活動の成績を示したるは語學、辯論、藝術、音樂、蹴球、野球、短艇、柔道、相撲等の各部である。蹴球部は關東の大關慶應義塾のそれと健闘して、大學は見事敗を取つたるが、中學に於て見事に勝を占め、結局五分五分にて終を告げたのである。ボート部は新造ボートが加はり氣勢大に揚りたる樣子が見ゆる。相撲は確に關西の强者には相違ない。しかれども佛教大學に一點を越されたるは實に千載の遺恨である。柔道に至りては餘り花々しく見えないが、同志社の柔道は蓋し天下無比の譽を博す。大學辯論部に至りては京阪神並に岡山縣地方に於て大に其氣勢を發揮したのであるが、聽衆は何時も滿堂立錐の地なきまでに至り、論調亦國民の覺醒に資するもの決して少くないと思ふ。學友會が同志社精神敎育の一大中心たらんことを吾々の希ふ所なれども、未だその期待に背かないとはいへない。來年度よりは大に注意を加へたいと思ふ。

十三、寄附金

本年度内に於て寄附金を受領せし總額は實に金八萬五千六百貳拾五圓拾錢の多額に達す。其内金參萬壹千圓は同志社維持會より、金壹千圓は辛卯學友會無名氏より、金五百圓は明治二十五年卒業同級生有志諸氏より本社經常費中へ受領せしも、決算に於ける不足金壹萬壹千圓は本社理事有志諸氏よりの寄附金にて補足する事を得たる次第である。猶圖書費中へ高木貞衞氏、三宅利平氏及大學豫科生諸氏其他有志諸氏より總額壹千八百七拾參圓餘の寄附金を受領せし外に大澤德太郎氏より大學留學費として金壹千圓、建築物に關しては大學々友會より器具室建築費金九百貳拾五圓の寄附を受け、又中學々生父兄諸氏及其他の有志よりは同校舍新築費として金貳萬六千六百餘圓の寄附を受領したるは本社の感謝措く能はざる處である。

十四、收支決算

本年度收支豫算額は各金貳拾六萬四千百九拾五圓なりしが支出金額は諸給金五千圓、備品金參千五百圓、圖書金參千圓、慰勞手當金貳千圓、修繕費金六千圓、寄宿舍費金千六百五拾圓等の支出超過に由て總額金貳拾八萬八千五百七拾參圓八拾參錢に上りたるが收入金額は學費、校費、資本利子、雜收入等の諸收入に

於て幾分の增收ありたるも、總額金貳拾五萬九千壹圓參拾參錢の收入を算し收入支出差引金貳萬九千五百七拾貳圓五拾錢の不足を生じた、依りて圖書費の內金壹萬貳千圓、備品費の內金五千五百七拾貳圓五拾錢、機械標本費の內金壹千圓、合計金壹萬八千五百七拾貳圓五拾錢を資產管理委員勘定中資產へ振替支出し尙不足額金壹萬壹千圓は理事津下、小林、上野、三宅、橋本諸氏の寄附金を受けて、爰に決算を終了することを得た。

更に本年度收支決算額金貳拾七萬壹圓參拾參錢を昨年度の同額金貳拾貳萬七千五百參拾七圓六拾五錢に比すれば金四萬貳千四百七拾參圓六拾八錢の增加となる。而して右增額の內收入金に於ては學費、校費、舍費等の收入は約金壹萬圓の增收にして殘額金參萬圓餘は寄附金等の臨時收入に屬し支出金に於ては臨時支出に屬すべきもの修繕費中の約金四千圓以外は殆んど諸給增額支出に屬するものである。

同志社資產管理委員報告

同志社資產負債表　大正十一年三月三十一日

貸方總額	一,四四七,九八二,九六円		
內譯			
資本總額	一,四〇五,二七八,三三		
恩賜資本		三,一八四,〇〇円	
本社資本		八一六,三〇一,九八	
本社資本			八一二,三〇一,九八円
アモースト學友寄附新島資本			四,〇〇〇,〇〇
理科學校資本		一〇九,六九七,三六	
圖書資本		一,〇〇〇,〇〇	
大學資本		二〇〇,三七六,九二	
大學資本			一一六,七九一,七四
校友發起大學資本			八三,五八五,一八
大學獎學資本		四,四〇八,二八	
中井獎學資本			九〇八,二八
德富淇水獎學資本			一,五〇〇,〇〇
草野獎學資本			一,〇〇〇,〇〇
石井獎學資本			一,〇〇〇,〇〇
大學神學資本		九八,五九一,九二	
神學資本			七九,五六八,三三
校友發起神學資本			一九,〇二三,六〇
大學神學獎學資本		二,六三七,八六	

デビス奬學資本			二、六三七、八六
中學資本		二五、二三五、五〇	
中學獎學資本		三、一五七、三九	
ラーネッド奬學資本			一、五一五、五八
ミッドルベリー大學學友奬學資本			一、六四一、八一
女學校資本		一三九、一四二、〇三	
女學校資本			一二六、八二〇、八九
同窓發起女學校資本			一二、二七一、一三
女學校家政科資本			五〇、〇〇
女學校獎學資本		一、五四五、〇〇	
女學校奬學資本			一、〇四五、〇〇
ミセスデビス奬學資本			五〇〇、〇〇
繰越總額	四二一、四三六、二四		
各寄附金繰越		四一、四四〇、五八	
前年度寄附繰越			一二、一五三、七四
本年度寄附繰越			二九、二八六、八四
各經費繰越		九九五、六六	
大學經費繰越			七一七、二〇
女學校經費繰越			二七八、四六
雜勘定總額	二六八、四九		
諸預金		一六七、四九	
保證金		一〇一、〇〇	
借方總額	一、四四七、九八二、九六		
内譯			
所有總額	一、三五三、〇四四、八七		
公債		一七五、九二六、九六	
神戸市債六萬貳百圓			五九、八三九、〇〇
長崎市債參萬四千圓			二八、九九八、〇〇
福岡市債壹萬六千圓			一五、七五一、〇〇
京都三回市債五萬圓			四六、九二六、〇〇
佛貨國庫債券拾萬五千法			二四、三一二、九六
臨時國庫證券百圓			一〇〇、〇〇
社債		二七二、一三二、四一	
日本興業第二十七回債券壹萬五千圓			一四、四〇〇、〇〇
同第二回保證付債券貳萬圓			一九、〇二〇、〇〇
北海炭礦汽船社債四萬參千五百圓			四二、一六一、七五
鐘淵紡績社債貳萬圓			一九、八四五、〇〇
富士瓦斯紡績社債參萬五百圓			三〇、三九六、〇〇
東京製綱社債貳萬五千圓			二四、四六〇、〇〇
東洋拓殖第七回社債五萬圓			四八、〇〇〇、〇〇
南滿鐵道第九回社債壹萬五千圓			一四、〇〇九、六六
北海拓殖第五十一回社債貳萬圓			二〇、〇〇〇、〇〇
同第五十三回社債四萬圓			三九、八四〇、〇〇
地所建物		八四八、一三六、一九	
宅地貳萬八千七百七拾參坪七合四勺			四一一、五六二、〇五
煉瓦造建物千貳百六拾六坪七合九勺			二七一、四六七、九一
木造建物參千六百四拾參坪參合五勺			一六五、〇九六、二三
圖書機械標本器具		五六、八五九、三一	
預金總額	七八、七四一、四九		
會社保管額		五四、〇〇〇、〇〇	
米國傳道會社保管預貳萬七千弗			五四、〇〇〇、〇〇
銀行預金		二四、四一六、六八	
村井銀行京都支店定期預金			二〇、〇〇〇、〇〇
日本興業銀行特別當座預金			七九、八一
村井銀行特別當座預金			六六、八四
第一銀行京都支店當座預金			二、九九六、二六
村井銀行京都支店特別當座預金			一、二七三、七七

振替貯金額			三四、八一
現金總額	二、四六一、四〇		
事務所現在金		二、四六一、四〇	
雜勘定總額	一三、七三五、一〇		
女學校々舍增築假拂金		九、七三八、一三	
假拂金		三、九九六、九七	

以上

（有價證券中京都市債五萬圓、東洋拓殖社債五萬圓、北海拓殖社債六萬圓、佛貨債劵拾萬五千法ハ大學基本財產積立ノタメ中央金庫ヘ供託シ其他ノ公債、社債ハ日本興業銀行ヘ披封保護預トシ預金證書ハ本社ヘ保管ス）

右は本年末に於ける本社資產負債の現計にして本年度中に生じたる諸勘定の增減額を列記すれば左の如し

資本勘定

本社資本　林醇平氏寄附金壹百圓、大學々友會寄附の器具室建築費金九百貳拾五圓、染殿町へ建築せし敎師館修築費の內金八百七拾四圓六拾錢、合計金千八百九拾九圓六拾錢を加へ新北小路町六百拾參番地の壹地上に在りし取毀建物原價金九百貳圓拾錢を減し差引金九百九拾七圓五拾錢を增額せり。

大學資本　杉本勇次氏寄附金五拾圓、大倉良範氏寄附金百圓、合計金百五拾圓を增加せり。

校友發起大學資本　寄附收納金貳千五百六拾參圓を增額せり。

大學神學資本　喜多謙一氏寄附國庫證券五拾圓、有志寄附收納額金參拾五圓、計金八拾五圓を增加せり。

校友發起神學資本　寄附收納額金五拾七圓を增加せり

大學神學奬學資本　デビス博士建碑委員よりの寄附金百七拾壹圓八拾六錢、千田民衞氏寄附金參拾圓、計金貳百壹圓八拾六錢を增加せり。

中學資本　大正九年度中學卒業生寄附金七拾圓を增加せり。

女學校資本　大正十年度女學校專門學部家政科卒業生より寄附の家政科資本金五拾圓を增加せり。

繰越勘定

前年度寄附繰越　金壹萬貳千四百九拾八圓九拾五錢に利息金收入金參百七拾六圓九拾貳錢を加へ合計金壹萬貳千八百七拾五圓八拾七錢の內立石岐氏寄附奬學金百圓、安東長義氏寄附金百圓、米國傳道會社寄附奬學金貳百四拾九圓拾參錢、吉田金太郎氏寄附奬學金の內百七拾參圓、三宅利平氏寄附圖書費殘金百圓合計金七百貳拾貳圓拾參錢を大學本科經費中へ支辨し差引金壹萬貳千百五拾參圓七拾四錢を繰越となせ

り。

本年度寄附金繰越　寄附總額別項內譯書列記の通り金八萬五千六百貳拾五圓拾錢に利息收入金貳百七拾七圓拾四錢を加へ合計金八萬五千九百貳圓貳拾四錢の內林醇平氏、大倉良範氏、杉本勇治氏、喜多謙一氏千田民衞氏、デビス博士建碑委員、大正九年度中學卒業生及び大正十年度女學校家政科卒業生諸氏の各資本指定寄附金合計金四千貳百壹圓八拾六錢を各資本へ受入れ、同志社維持會寄附金參萬壹千圓、理事諸氏の寄附金壹萬壹千圓、大澤德太郎氏、無名氏、上野榮三郎氏、小川健吉氏諸氏の寄附金貳百九拾圓辛卯學友會無名氏寄附金千圓の內六百圓、合計金四萬貳千八百九拾圓を本部經費へ供用し三宅利平氏、高木貞衞氏、林源十郎氏、有島武郎氏、米國傳道會社、米國同胞教會傳道會社寄附の大學圖書費、奬學金等の寄附、合計金六千四百四拾八圓五拾四錢を大學本科經費中へ、太平洋婦人傳道會寄附並に伊庭菊次郎氏寄附の女學校經費及び圖書費寄附金參千七拾五圓を女學校經費中へ各振替供用し差引殘額金貳萬九千貳百八拾六圓八拾四錢を繰越とせり。

右二口寄附殘額繰越高內譯左の如し。

デフォレスト孃寄附デビス館費	一〇、〇〇円
ウォルド孃寄附同上	五、〇〇
ウエスタベルト氏寄附女學校擴築費	七九八、〇〇
同上利子	二六五、一八
在米校友修學資金	一八八、八一
同上利子	四九、五七
大正六年度女、普通學部卒業生寄附女、公會堂時計	九〇、〇五
ビー、チー、ミラー氏寄附法科大學資本	一〇〇、〇〇
同上利子	一九、八二
河崎助太郎氏寄附女學校公會堂建築費	二〇〇、〇〇
同上利子	三九、六五
ウイリアム、エッチ、リーブ氏寄附同上	九、七三
ネリー、ビー、セッヂリー氏寄附同上	五七、八三
同上利子	九、一五
ハーワード、ミルス夫妻寄附同上	九七、三〇
同上利子	一五、三八
メーリー、イー、ピープル氏寄附本社地所擴築費	一九、二三
エス、エッチ、バレット氏寄附同上	一九、四二
エス、エッチ、ポートマン氏寄附同上	一九、四六
イー、ワイ、パトリッヂ氏夫妻寄附同上	一九、三二
エッチ、シー、バレット氏寄附同上	二九、一二
ウエスタベルト氏寄附同上殘高	五、五三五、二九
同上利子	八七六、五八
メリー、トマス孃寄附同上	三、七六
アレキサンドル氏寄附同上	一九一、三九
同上利子	二二、七四
カロライン、ヘーザート孃本社公會堂改築費	一、九二三、〇七
同上利子	二一八、五六

イー、エー、ヲム孃寄附神學寄宿舍建築費	九〇、六〇
同上利子	六、七三
吉田金太郎氏寄附神學生奬學金殘高	四二一、五〇
米國傳道會社寄附神學生奬學金殘高	二五二、五〇
大正八年度豫科生寄附大學圖書費	四七三、七一
大正九年度法學部卒業生寄附大學圖書費	二五〇、〇〇
米國同胞教會寄附神學圖書費	二二七、七七
イー、ヂー、ルーミイス氏寄附女學校	二〇六、七一
辛卯學友會無名氏寄附金殘高本部經費	四〇〇、〇〇
明治廿五年卒業同級生寄附同上	五〇〇、〇〇
大澤德太郎氏寄附大學留學費	一、〇〇〇、〇〇
中學校舍建築費寄附金	二六、六〇一、五〇
同上利子	二七七、一四
合計	四一、四四〇、五八

各經費繰越　は奬學資本利子にして前年度繰越高五百九拾圓貳拾五錢、本年度繰越高四百五圓四拾壹錢なり。

所有勘定

公債　福岡市水道公債壹千圓、神戸市水道擴張公債四千圓の償還元金を受領し計金五千圓を減せしが、佛貨國庫債券拾萬五千法を金貳萬四千參百拾貳圓九拾六錢にて買入、臨時國庫證券五拾圓の寄附を受入れたるにより差引金壹萬九千參百六拾貳圓九拾六錢を增加せり。

社債　南滿鐵道會社債券額面貳萬五千圓を金貳萬四千六百五拾圓參拾四錢に賣却し（佛貨債券拾萬五千法買入のため）鐘淵紡績會社債券八千圓、富士瓦斯紡績社債六千五百圓、富士製紙會社債券額面參萬圓償額金貳萬八千八百圓の償還元金を受取、合計金六萬七千九百五拾圓參拾四錢を減額せり。

地所建物　廣橋殿町四百四番ノ壹地所五拾貳坪九合九勺建物拾四坪六合參勺を賣却し元價金千貳百六圓拾錢、新北小路町六百拾參番ノ壹の地上に在りし二階建家屋四拾參坪七合參勺平家五坪五合を豫科教室建築の爲め取毀移轉せしにより此元價金九百貳圓拾錢を減せしも豫科教室弘風館木造二階建タッコー塗九拾九坪七合五勺の新築費金參萬百九拾壹圓拾七錢、染殿町リ號教師館敷地内に移轉修築せし教師館二階建四拾參坪五合五勺の價額金四千五拾五圓四拾參錢新北小路町六百六番ノ貳に移轉修築せし附屬家平家八坪貳合五勺の代金五百拾參圓四拾七錢、運動場内に建築せし器具室平家九坪七合五勺代金九百貳拾五圓、新北小路町大學食堂貳坪建增金貳百圓、圖書館屋上避雷針及標竿設置費金參百八拾圓、同鐵製階段

建設費金百七拾七圓、圖書館東附屬家修築費の內金四百五拾圓合計金參萬六千八百九拾貳圓七錢を增加せしに依り差引金參萬四千七百八拾參圓八拾七錢の增額となれり。

圖書器械標本器具　本年度本社各部に於て購入せる圖書費金壹萬六千八百五拾四圓八拾錢の內金壹萬貳千圓、備品費金八千九百五拾八圓八拾六錢の內金五千五百七拾貳圓五拾錢、器械標本費金壹千貳百九拾六圓六錢の內金壹千圓合計金壹萬八千五百七拾貳圓五拾錢を本勘定より支出增額せり。

本年度內に各資本金より生じたる利子の總額は左記內譯の通り金四萬五百拾四圓貳錢にして

恩賜資本利子	二一六、八三円
本社資本利子	五九五、一一六
理科學校資本利子	七、四七〇、三九
圖書資本利子	六八、一〇
大學資本利子	七、九四三、三〇
校友發起大學資本利子	六、八三五、一一九
大學神學資本利子	五四一二、八一
中學資本利子	一、七一三、七七
女學校資本利子	八、六三六、五〇
同窓發起女學校資本利子	八三五、六六
各奬學資本利子	七八六、三一

右利子を本社へ供用せる金額は

本部經費	七、八六五、五五円
大學本科經費	二〇、三五七、一九
中學經費	一、九二八、七八
女學校經費	九、四七二、一六
圖書館經費	四八四、九三

合計金四萬百八圓六拾壹錢なり。

右差引殘額金四百五圓四拾壹錢は奬學資本利子の內繰越となせるものなり。

臨時收入金　富士製紙會社債劵償還元金參萬圓の內元金貳萬八千八百圓差引金壹千貳百圓、廣橋殿町地所家屋賣却代金五千九百八拾貳圓拾七錢の內元價千貳百六圓拾錢を差引たる金額四千七百七拾六圓七錢の二口金九千九百七拾六圓七錢を臨時收入金として本社經費へ供用せり。

本年度末に於ける資本總額は金百四拾萬五千貳百七拾八圓貳拾參錢にして前年末の資本總額金百四拾萬千百參圓八拾七錢に比して金四千百七拾四圓參拾六錢の增額となれるも地所、建物、圖書、標本器具に於て昨年末の金八拾五萬千六百貳拾九圓拾參錢に對し本年末の金九拾萬四千九百八拾五圓五拾錢を示し差引金五萬

參千參百五拾六圓參拾七錢の增額となれるは夫丈流通資本を固定せしめたる顯象にして資產の運用上洵に遺憾とする處なり。

以上本年度の資產決算前記の通に付茲に報告仕候也

大正十一年三月三十一日

同志社資產管理委員

上野榮三郎

津下紋太郎

三宅利平

右調查を遂げ其正確なるを承認候也

同志社監事

原田二郎

板原兵三郎

同志社所有不動產明細表

大正十一年三月三十一日現在

本

地所 京都市上京區市街宅地 町名	番地	坪數（坪）	評價（円）	建物 稱呼	木造及煉瓦造 二階建 坪數（坪）	二階建 評價（円）	平家建 坪數（坪）	平家建 評價（円）	合價
御所八幡	一〇六	一六六、八〇	一五〇、〇〇	神學館	一〇一、三一	一〇、一三一、〇〇			
同	一〇八	一、九八五、五六	一六、九七五、八〇	理科學館	一四六、〇五	一四、六〇五、〇〇	五六、五〇	五、六五〇、〇〇	
同松	二六四	七八五、四六	六、〇〇八、四〇	公會堂			八七、六二	八、七六二、〇〇	
同	二六四ノ一	二五三、六一	三、六四七、六七				三、〇〇	三〇〇、〇〇	
同	二六四ノ二	二三、〇八		彰榮館	七二、九五	七、二九五、〇〇			
同	二六四ノ三	九、八九	一〇一、五七	立志館			二六五、五〇	一八、五四二、四五	
相國寺門前	六三九	二、七八八、九七	二六、三五五、六〇	生徒控所			三二、〇〇	七八八、四六	
同	六三九ノ一	三二、八六		講武館			一二九、七五	七、一六〇、〇〇	
同	六三〇	八九一、九一	八、四二九、四〇	銃器室			四八、〇〇	四八〇、〇〇	
同	六三〇ノ一	五〇八、〇五	七、三〇七、三七	器具室			九、七五	九二五、〇〇	
同	六四一ノ一	一〇〇、二四	九四六、八〇	弓術場			六、〇〇	三〇〇、〇〇	
				附屬家			三七、九七	一八九、八五	
				中學門衞			一四、〇〇	七〇七、四一	
新北小路	六〇三	三三、九〇	一、六七五、五五	大學食堂			七〇、五〇	五、四六八、三六	
同	六〇四	五四、〇三	二、六七〇、二八	附屬家			一、〇〇	一〇、〇〇	

部

同	六〇六ノ一	六八、七〇	三、三九五、六五
同	六〇六ノ二	三〇、八七	一、七二四、六八
同	六〇七	三一、三六	一三九、六八
同	六〇八	三八、七一	四七三、八八
同	六〇九合二	五二、五二	一七四、九七
同	六一一	六五、四〇	四、四三六、五一
同	六一二	二五八、九七	二、四七六、〇三
同	六一三ノ一	一三七、一三	三、六〇四、〇一
同	六二一	一七四、五七	六、三六一、八二
同	六二一合一	七九、八五	一、一四八、四八
同	六一五合五	四一六、三三	三、九三三、〇〇
同	六二五	一四一、六七	九、一七九、四六
同	六二六	五、三七	五〇九、七一

附属家			一〇、五〇	一五七、五〇
同			八、二五	五一三、四七
同			一五、一九	七五、九五
同			九、〇〇	二三〇、〇〇
同			一三、四五	六七、二五
同			一一、七五	五八、七五
同	一五、七五	四七二、五〇	一、〇〇	五、〇〇
同	一八、〇〇	五四〇、〇〇	二、七五	一三、七五
事務局	六一、五〇	二、八六五、五八	一〇、二五	五一、二五
倉庫			三、三三	六〇六、〇〇
附属家			二六、九八	二六九、八〇
弘風館	九九、七五	三〇、一九二、一七		
本部受付			三一、五〇	二、一六七、五〇
附属家			二三、五〇	二三〇、〇〇
同			二九、二五	二八七、五〇
有終館	九八、五九	九、八五九、〇〇		
致遠館	一一七、一三	一八五八三、六六		
附属家			三、〇〇	一五、〇〇

	同	六二六ノ三	一二七、七七	一、三二二、二九
	同	六二七ノ一	五一、七〇	五五八、一四
	玄武	六〇〇ノ一	三八九、〇〇	四、九〇一、九四
	同	六〇一	一一三、六九	二、五三六、〇九
	小計		九、八一五、九七	三一、一三四、九八
北寮	御所八幡	一〇三合三	六四七、一七	五、五三三、二〇
	上立賣東	三六合二	七七〇、三六	一〇、七八五、〇〇
	裏築地	七七合二	二五五、七八	四、六〇二、六〇
	小計		一、六七三、三一	二〇、九二〇、八〇
西寮	岡松	二五五合四	七三九、六四	五、七二一、四〇
	同	二五七	三五、八〇	一、一五七、九五
	築山南半	二三九	一〇六、八六	二、九九二、一〇
	小計		八八二、三〇	九、八六一、四五

		七三二、〇七	九四、六四六、九一	九六一、二七	五三、七六二、二五	二六九、五四三、九四
北寮	前寮	七二、七一	一、四五四、二〇			
	後寮	七八、二一	一、五六二、二〇			
	第一寮	三一、九五	一、三四九、三三			
	第五寮	六二、二八	一、三三五、六〇			
	第六寮	八一、三三	三、二五九、五二			
	中學食堂			一三、〇〇	七、五六八、八二	
	浴場			一〇、五〇	一、三二八、一二	
	附屬家			一〇、五〇	一〇五、〇〇	
	同			二七、五〇	一、三六五、三五	
	同			一九、五五	九七、七五	
	小計	三五、三八	八、八五〇、八五	二〇一、〇五	一〇、三五五、〇四	四〇、一二六、六九
西寮	第十寮	四一、七八	八三五、六〇			
	第十二寮	七八、五〇	一、五七〇、〇〇			
	附屬家			九、五〇	四七、五〇	
	小計	一二〇、二八	二、四〇五、六〇	九、五〇	四七、五〇	一二、三一四、五五

東寮	相國寺門前	六三一ノ一	一、一三八、四三	一〇、七五七、八〇
	同	六三二	二〇、三〇	一九二、六〇
	玄武町	六〇二ノ一	三七二、三〇	四、〇二一、四〇
	同	六〇二ノ二	四五〇、六四	一一、〇〇八、七七
	同	六〇二ノ三	八三二、八二	二〇、三六二、四五
	小計		二、八一四、四九	四六、三四三、〇二
女學	玄武	六〇二ノ四	二四五、六九	五、四八二、六一
	同	六〇二ノ五	九五九、七三	二三、四五七、五六
	同	六〇二ノ六	三二一、二一	五、六三〇、八〇
	同	六〇二ノ七	一、二一七、五九	一三、〇六九、一一
	同	六〇二ノ八	二〇、四九	七三〇、四六
	同	六〇二ノ九	一二一、九五	三、九九五、八七
	常盤井殿	五四三ノ二	三、一九二、七六	四八、八五一、四二

東寮	第三寮	六〇、六五	一、二二三、〇〇			
	第四寮	五七、九八	一、一五九、六〇			
	第七寮	五五、一七	一、一〇三、四〇			
	附屬家			二九、六四	一四八、二〇	
	圖書館	二八、八二	九〇、六二八、二六			
	書庫	四七、一八	一三、三二一、五三			
	附屬家			七六、六〇	一、九八二、二六	
		三三九、八〇	一〇六、三一五、七九	一〇六、二四	二、一三〇、四六	一五四、七八九、二七
女學	靜和館	二〇五、四〇	四五、三五八、五六	一三、五〇	四〇〇、〇〇	
	ゼームス館	二一〇、八九	四七、六七三、九〇			
	家政館	一三九、〇〇	一三、三六八、九〇	四、〇〇	六〇二、二六	
	特別教室	三三、七四	一、六八〇、一五	三八、〇〇	三、五一〇、〇〇	
	事務所			一六、八〇	七四五、四五	
	體操場			一〇二、六八	五、八九四、三五	
	平安寮	一二五、〇〇	八、一二五、〇〇			
	新島寮	三七、五〇	七五〇、〇〇	二、七五	二七、五〇	
	常盤寮	一〇七、六五	二、八一四、四二	九、〇〇	九六、一五	
	食堂			三七、〇〇	三七〇、〇〇	
	浴場			三〇、〇〇	三〇〇、〇〇	
	炊事場			三三、〇〇	三三〇、〇〇	

校	同	五四三ノ四	三四五、六〇	五、一三三、三七
	小計		六、二二四、九二	一〇五、三五一、二〇
教師	築山北半	二五ノ一	二三三、二四	三、四六三、四三
	御所八幡	一一〇合五	三三九、一三	二、八一三、四〇
	同	一一五ノ三	三七六、五七	四、六〇九、八五
	梅屋	四七五	四三六、一三	八、〇二六、二〇
	今出川	三三一ノ一	一九、一三	五七三、九〇
	梅屋	四六八	三六六、六八	五、九二九、二〇
	觀三橋	五六三	三〇、五〇	三一五、七〇
	同	五六七ノ二	五四、七九	一、一四六、二九
	同	五七七	七三、三六	二、三〇二、〇〇
	常盤井殿	五四三ノ三	一、七八三、九六	二七、二九三、四〇
	染殿	六六五ノ一	一、七九四、〇二	三八、七四九、二七

附屬家			九、四六	七七、一〇	
同			九、六七	九六、七〇	
同			一六、五〇	八二、五〇	
同			一〇、五九	二、九九〇、三〇	
食堂	三三、〇〇	二、二六二、九一			
寄宿舍	五五、〇〇	二、四五五、一一	三、〇〇	九〇、〇〇	
	九三七、一八	一三、四八八、九五	三三四、九五	一五、六一二、三二	二四四、四五二、四六
ロ號教師館	二四、四二	七三二、六〇			
附屬家			八、九八	八九、八〇	
ハ號教師館	六五、七二	一、九七二、三〇			
附屬家			一六、四〇	一六四、〇〇	
ニ號教師館	四二、八九	一、二八六、七〇			
附屬家			三一、一九	三一一、九〇	
ホ號教師館	四八、四五	一、四五三、五〇			
附屬家			三〇、七〇	三〇七、〇〇	
チ號教師館	四一、〇〇	一、二三〇、〇〇			
附屬家			三七、六九	三七六、九〇	
リ號教師館	五三、六〇	一、六〇八、〇〇			

館			
松蔭	一四〇ノ四	八三六、八四	五、七四三、六五
裏築地	八八合二	四〇七、三四	二、七四〇、六三
福永	五二三合四	四〇九、八二	二、八二一、二七
同	五二三合四ノ一	一、九五	一三、三七
同	五二三ノ一	四〇	二、七四
観三橋	五五九合二	五七、四三	三九三、九六
同	五五九ノ一	七、六三	五二、三四
岡松	二七〇合二	一三六、八五	九七〇、二〇
小計		七、三七二、七五	一〇七、九五〇、八〇
合計		二八、七七三、七四	四二一、五六二、〇五

附屬家			二八、五七	二八五、七〇	
教師館	四三、五五	四、〇五五、四三			
ヌ號教師館	六九、二五	二、〇七七、五〇			
附屬家			三一、二六	三一二、六〇	
教師館	六三、〇〇	九四五、〇〇	七、七五	三八、七五	
附屬家			二三、二五	一一六、二五	
教師館	四五、七一	四五七、一〇	一五、八九	七九、四五	
附屬家			四、五〇	三三、五〇	
室町寮	三四、三二	三四三、二〇	二、五三	一三、六五	
同	三四、三二	三四三、二〇	一、九九	九、九五	
同	三七、〇〇	三七〇、〇〇	七、五〇	三七、五〇	
小計	六〇三、三二	一六、八七三、五三	二三九、二〇	二、〇七四、九五	一三六、八九九、二八
合計	三、〇五七、九三	三五二、五八一、六三	一、八五二、二二	八三、九八二、五二	八四八、一三六、一九

建物總坪 四、九一〇、一四 評價 四三六、五六四、一四

（煉瓦坪數 一、二六六坪七九 評價 二七一、四六七、九一
（木造坪數 三、六四三、三五 評價 一六五、〇九六、二三

本表評價標準 （地所は特種の理由あるものの外法定地價の十倍とす
（建物は最近新築のものは其建築費に依り他は概して坪當り煉瓦は百圓、木造は二階家三十圓、二十圓、平家十五圓、十圓、五圓等とす

大正拾年度同志社收支決算表

自大正十年四月一日
至大正十一年三月三十一日

歲

項目	本社	大學本科	大學豫科	中學	女學校	圖書館	合計
	円	円	円	円	円	円	円
學費		三二、一〇九、〇〇	三九、三七三、八〇	四二、七〇六、五〇	三七、五一八、〇〇		一四一、七〇七、三〇
試驗料		九五、〇〇	二、八三五、〇〇	二、六六四、〇〇	八〇八、〇〇		六、四〇二、〇〇
入學金		六五、〇〇	一、二二五、〇〇	七七七、〇〇	四八六、〇〇		二、五五三、〇〇
授業料		二一、九四九、〇〇	三五、三一三、八〇	三九、二六五、五〇	三六、二二四、〇〇		一三二、七六二、三〇
校費	一五、四五一、〇〇						一五、四五一、〇〇
舍費		八七〇、二五	一、九五二、一五	四、三九五、五〇	二、八八〇、〇〇		一〇、〇九七、九〇
資本利子	七、八六五、五五	二〇、一九一、三〇		一、七一三、七七	九、四七二、一六	四八四、九三	三九、七二七、七一
恩賜資本						二二六、八三	二二六、八三
本社資本	三九五、一六					二〇〇、〇〇	五九五、一六
中學資本				一、七一三、七七			一、七一三、七七
理科學校資本	七、四七〇、三九						七、四七〇、三九
大學資本		七、九四三、三〇					七、九四三、三〇
校友發起大學資本		六、八三五、一九					六、八三五、一九
神學資本		五、四二三、八一					五、四二三、八一
女學校資本					八、六三六、五〇		八、六三六、五〇

入

同窓發起女學校資本					八三五、六六		八三五、六六
圖書館資本						六八、一〇	六八、一〇
獎學資本利子		一六五、八九		二一五、〇一			三八〇、九〇
寄附金	四二、八九〇、〇〇	六、四四八、五四			三、〇七五、〇〇		五二、四一三、五四
雜收入	二、二六六、七〇	六一四、五一	一二九、八三	三九〇、六〇	一三三、一四		三、五二四、七八
臨時收入	五、九七六、〇七						五、九七六、〇七
繰越金		七三、一三					七三、一三
計	七四、四四九、三三	五一、一三一、六二	四一、四四五、七八	四九、四二一、三八	五三、〇七八、三〇	四八四、九三	二七〇、〇〇一、三三

歳

諸給	二〇、九四三、二二	五四、三六四、三三	三五、一七三、一九	四二、七二三、五〇	三七、八四四、六八	五、五九九、三八	一九六、六四七、二九
俸給	一六、二二九、〇〇	五三、二四六、六五	三三、六五三、二八	三九、五八七、二二	三六、二八二、二八	四、〇九九、八六	一八三、〇八八、二九
雜給	四、七二四、二二	一、一一七、六八	一、五一九、九一	三、一三五、二八	一、五六二、四〇	一、四九九、五二	一三、五五九、〇〇
慰勞手當	四四三、〇〇	一、二〇四、〇〇	一五四、〇〇	三五八、〇〇	一、六五二、〇〇	一八七、〇〇	三、九九八、〇〇
講演費	七〇、〇〇	二九〇、三一	三三、〇〇	二一九、七〇			六一三、〇一
留學費		一、五五〇、〇〇					一、五五〇、〇〇
獎學費		二、七四〇、〇〇		一、〇五二、一〇			三、七九二、一〇
圖書費		二、七八七、八二	五一四、八八	四三七、八〇	三八三、八四	七三〇、四六	四、八五四、八〇
機械標本費				二四一、六五	五四、四一		二九六、〇六
備品費	三五三、四六	六九七、六二	三四四、九一	八七五、九九	六一二、二〇	五〇二、一八	三、三八六、三六
修繕費	二、四六七、九三	一、九九五、〇五	一、三七九、六五	二、二八九、九四	一、四八〇、九〇	二、四八五、五三	一二、〇九九、〇〇
校合	一、〇〇六、九八	一、九七七、五八	一、三六六、二八	二、一一三、八七	一、三九四、六三	二、四八〇、六六	一〇、三四〇、〇〇

出

出							
附屬家	一、四〇五、三三						一、四〇五、三三
器具	五五、六二	一七四、四七	一三、三七	一七六、〇七	八六、二七	四、八七	三五三、六七
諸税	二、〇九〇、三九						二、〇九〇、三九
借地料			六六三、〇六	六六三、〇六	三三三、三三		一、六四八、三四
火災保險料	八七、四四	六六、六二	九七、六七	一二四、六七	二二八、〇二	三三四、八〇	九二九、二三
旅費	一、五一七、九〇	三六二、四四	九八、二六	四四〇、二七	一八八、〇一	一九五 九六	二、八〇二、八四
通信費	四六二、〇五	一五四、一一	八〇、六四	一八二、〇一	一六三、三三	三二、八〇	一、〇六四、九四
廣告費		八五、〇七	四三九、〇四	二三九、八七	四四六、二四		一、二一〇、二三
印刷費	八九七、三六	一〇七、一三	二九一、五八	三五一、七五	一〇一、二〇		一、七四九、〇一
消耗費	一、〇八六、二三	一、八七六、〇三	一、一七七、五一	三、一五九、六一	二、一一九、七二	一、一五三、四一	一〇、五七二、五〇
教授用品		六三一、〇五	四三、五九	一、二二七、七九	二五〇、五五		二、一五二、九八
文具雜品	六〇九、一五	七〇九、二三	五〇七、〇〇	八七九、九〇	五七二、七四	五〇五、二六	三、七七八、八八
燃料品	三〇五、〇五	五一七、〇五	五九三、〇九	九六六、八三	九五一、五〇	五九八、一八	三、九三二、一七
電燈瓦斯	一四三、八九	一八、六九	一五、七〇	五二、八九	二三〇、五六	二九、七九	四九一、五二
水道	三二、一四		一八、一三	三二、六〇	一二四、三七	二〇、一八	二二七、四二
寄宿舍費		一、四八四、五三	二、五〇九、四三	四、九四三、六二	三、〇〇一、六三		一、九三五、二二
卒業式費		五九、〇〇		一六八、七五	九五、〇〇		三三五、七五
雜費	二、三二五、七三	二六九、四三	一三一、一九	五九一、六六	四〇三、七〇	一五二、八八	三、八七四、五九
臨時費	三、八七六、七〇	五三八、〇〇	一五〇、〇〇				四、五六四、七〇
計	三六、六二一、四〇	七〇、六三一、四七	四三、二三四、〇一	五九、〇六二、九五	四九、〇八七、一〇	一一、三六四、四〇	二七〇、〇〇一、三三

大正拾年度同志社收支決算比較表

	大正十年度決算	同年度豫算	增	減	大正九年度決算	增	減
收入	円	円	円	円	円	円	円
學費	一四一、七〇七、三〇	一三六、六二〇、〇〇	五、〇八七、三〇		一三四、〇一五、一〇	七、六九二、二〇	
校費	一五、四五一、〇〇	一三、九二〇、〇〇	一、五三一、〇〇		一三、九一四、〇〇	一、五三七、〇〇	
舍費	一〇、〇九七、九〇	一〇、一三七、〇〇		三九、一〇	九、三四九、八五	七四八、〇五	
資本利子	三九、七二七、七一	三六、九九二、〇〇	二、七三五、七一		三六、八〇三、〇六	二、九二四、六五	
奬學資本利子	三八〇、九〇	七一八、〇〇		三三七、一〇	九二、〇〇	二八八、九〇	
寄附金	五二、四一三、五四	六三、〇八三、〇〇		一〇、六六九、四六	二三、一四九、二三	三〇、二六四、三一	
雜收入	三、五二四、七八	二、七二五、〇〇	七九九、七八		二、九〇一、三一	六二三、四七	
臨時收入	五、九七六、〇七		五、九七六、〇七			五、九七六、〇七	
繰越金	七二三、一三		七二三、一三		八、三一二、一〇		七、五八九、九七
計	二七〇、〇〇一、三三	二六四、一九五、〇〇	一六、八五一、九九	一一、〇四五、六六	二三七、五三七、六五	五〇、〇五三、六五	七、五八九、九七
支出							
諸給	一九六、六四七、二九	一六四、七五五、〇〇	三一、八九二、二九		一四二、六七一、九七	五三、九七五、三二	
慰勞手當	三、九九八、〇〇	一、八〇〇、〇〇	二、一九八、〇〇		二、五三六、七〇	一、四六一、三〇	
講演費	六一三、〇一	一、〇五〇、〇〇		四三六、九九	三〇三、一八	三〇九、八三	

留學費	一、五五〇、〇〇	一、三〇〇、〇〇	二五〇、〇〇		一、四〇〇、〇〇	一五〇、〇〇	
獎學金	三、七九二、一〇	三、四〇七、〇〇	三八五、一〇		三、二八八、〇〇	五〇四、一〇	
圖書費	四、八五四、八〇	一三、五〇七、〇〇		八、六五二、二〇	一、〇九三、八八	三、七六〇、九二	
機械標本費	二九六、〇六	二、四二六、〇〇		二、二二九、九四	四、三〇	二九一、七六	
備品費	三、三八六、三六	五、四二〇、〇〇		二、〇三三、六四	二、二二六、二三	一、三六〇、一三	
修繕費	三、〇九九、〇〇	六、一〇七、〇〇	五、九九二、〇〇		五、九七三、四七	六、一二五、五三	
諸税	二、〇九〇、三九	二、六一四、〇〇		五二三、六一	二、〇七八、七六	一一、六三	
借地料	一、六四八、三四	一、四六〇、〇〇	一八八、三四		一、四五三、九四	一九四、四〇	
火災保險料	九二九、三三	九三一、〇〇		一、七八	八五九、四〇	六九、八二	
旅費	二、八〇二、八四	二、九八〇、〇〇		一七七、一六	三、〇六〇、五五		二五七、七一
通信費	一、〇六四、九四	一、一三〇、〇〇		六五、〇六	九四四、六四	一三〇、三〇	
廣告費	一、二一〇、二三	八八〇、〇〇	三三〇、二三		八〇二、九三	四〇七、二九	
印刷費	一、七四九、〇一	一、二〇五、〇〇	五四四、〇一		一、二九〇、一九	四五八、八二	
消耗費	一〇、五七二、五〇	九、四六八、〇〇	一、一〇四、五〇		一〇、三五一、〇八	二二一、四二	
寄宿舍費	一一、九三五、二一	一〇、二七七、〇〇	一、六五八、二一		一一、三四九、〇三	五八六、一八	
卒業式費	三二二、七五	五一〇、〇〇		一八七、二五	五一三、六九		一九〇、九四
雜費	三、八七四、五九	一、八二〇、〇〇	二、〇五四、五九		二、七七五、五三	一、〇九九、〇六	
臨時費	四、五六四、七〇	三一、一四八、〇〇		二六、五八三、三〇	三二、六五九、五六		二八、〇九四、八六
計	二七〇、〇〇一、三三	二六四、一九五、〇〇	四六、五九七、二六	四〇、七九〇、九三	二三七、五三七、六五	七一、〇〇七、一九	二八、五四三、五一

大正十年度同志社各學校學生表

學部別		前年度越高	入學數	登簿總數	退學數	三月以前卒業生	三月一日現在數	三月十日卒業生	豫科修了生	豫科ヨリ進級	三月末現在
大學 豫科	舊	一四〇		一四〇	六		一三四		一三六		八
大學 豫科	新	一四六	二四〇	三八六	四八		三三八				三三八
大學 神學部	舊	一八	六	二四	四		二〇	八			一二
大學 法學部 政治科	舊	一	一	二		二					
大學 法學部 政治學科	新	二三	五	二八			二八			五	三三
大學 法學部 經濟科	舊	一〇		一〇		一〇					
大學 法學部 經濟學科	新	二三八		二三八	二〇		二一八			一二〇	三二八
大學 文學部	舊	三		三		三					
大學 文學部 英文學科	新	一三	四	一七	一		一六			七	二三
大學 文學部 神學科	新									四	四
計		五九二	二五六	八四八	七九	一五	七五四	八	一三六	一三六	七四六
中學		六六八	二五二	九二〇	一三五		七九五	八一			七一四
女學校 普通學部		三九四	一五五	五四九	三四		五一五	三八			四七七
女學校 專門學部 豫科		八	九五	一〇三	二四		七九		五九		二〇
女學校 專門學部 英文科		七七	二三	九九	一四		八五	一九		四二	一〇八

（一部）家政科	一三		一三	二		五二	二		一七	四八
計	五五二	二七二	八二四	九三		七三一	七八	五九	五九	六五三
總計	一、八一二	七八〇	二、五九二	二九七	一五	二、三八〇	一六七	一八五	一八五	二、一一三

備考　大學部に於て「舊」とあるは專門學校令に據れる同志社大學學生にして「新」とあるは大學令に據る同志社大學の學生數なり

同志社各學校卒業生員數

學校名＼卒業年度	前年度迄ノ計	大正十年度	計
大學 神學部 本科	五五	七	六二
大學 神學部 選科	一六	一	一七
大學 法學部（政治經濟部改稱） 本科	四七四	一二	四八六
大學 法學部（政治經濟部改稱） 選科	三	—	三
大學 文學部（英文科改稱） 本科	四九	三	五二
大學 文學部（英文科改稱） 選科	三	—	三
大學 經濟科（舊專門學校規定）	四四	—	四四
大學 英文科（同上）	二二	—	二二
中學（卅四年以後普通學校改稱）	二、二二三	八一	二、三〇四
女學校 專門學部	一一〇	四〇	一五〇
女學校 高等學部（舊規定）	七三	—	七三
女學校 普通學部	五二六	三八	五六四
神學校	二〇〇	—	二〇〇
專門學校	五九	—	五九
理科學校	三	—	三
政法學校	一九	—	一九
中學校	一〇三	—	一〇三
高等學部	七	—	七
看病婦學校	一三六	—	一三六
普通學校（卅四年前）	三八八	—	三八八
計	三、五一一	一八二	三、六九三

同志社各學校現在學生府縣別表（大正十一年三月現在）

府縣別＼學校別	大學	中學	女學校	計
京都	一九四	四三七	三二五	九五六
大阪	一四九	二七	三六	二一二
奈良	二四	一一	一三	四八
兵庫	七六	五〇	五五	一八一
岡山	二八	二六	四一	九五
廣島	一二	一四	一三	三九
山口	一七	七	九	三三
鳥取	一二	五	四	二一
島根	四	三	五	一二
和歌山	二六	六	一二	四四
香川	五	二	五	一二
愛媛	二四	八	一七	四九
德島	五	二	一	八
高知	六	一	四	一一
福岡	一五	五	九	二九
大分	三	四	三	一〇
佐賀	一	三	二	六
長崎	｜	五	四	九
鹿兒島	七	二	三	一二
三重	一二	一二	一五	三九
熊本	五	一	一四	二〇
宮崎	三	四	三	一〇
愛知	八	六	一〇	二四
靜岡	五	三	六	一四
山梨	二	一	三	六
神奈川	三	五	二	一〇
東京	一二	九	一五	三六
埼玉	｜	二	三	五
千葉	一	三	一	五
茨城	｜	｜	｜	｜
滋賀	四一	三四	三二	一〇七
岐阜	七	八	四	一九
長野	｜	三	二	五
群馬	九	｜	一	一〇
栃木	二	一	｜	三
福島	二	一	二	五
宮城	五	五	四	一四
巖手	｜	｜	三	三
青森	｜	｜	｜	｜
山形	三	二	二	七
秋田	｜	二	二	四
福井	三	九	八	二〇
石川	六	七	六	一九
富山	三	一	二	六
新潟	五	四	五	一四
沖繩	｜	｜	｜	｜
北海道	四	四	一一	一九
臺灣	五	三四	三	四二
朝鮮	｜	一一	一	一二
支那	｜	三	一〇	一三
獨逸	｜	二	｜	二
計	七五四	七九五	七三一	二、二八〇

大正十年度同志社各學校卒業生氏名表（ＡＢＣ順）

△大正十年四月一日卒業

大學文學部（一名）

藤森芳雄　京都府

△大正十年五月三日卒業

大學法學部

政治科（一名）

大沼公介　新潟縣

大學法學部

經濟科（五名）

古寺季廣　鳥取縣
林光太郎　京都府
鴫脚陸三　京都府
片田眞造　福岡縣
奥野二郎　京都府

△大正十年六月十五日卒業

大學法學部

經濟科（一名）

（選科）權泰勳　朝鮮

△大正十年七月一日卒業

大學文學部（一名）

林敬直　東京府

△大正十年七月十日卒業

大學法學部

經濟科（一名）

松浦恭一　德島縣

△大正十年七月二十日卒業

大學法學部

政治科（一名）

上野泰　京都府

△大正十年十一月十五日卒業

大學法學部

經濟科（三名）

大倉儀　富山縣
佐伯茂治　廣島縣
佐伯巖　京都府

△大正十年十二月廿二日卒業

大學文學部（一名）

手塚龍麿　東京府

△大正十一年三月十日卒業

大學神學部（八名）

有賀鐵太郎　東京府
福島實　大阪府
森川正雄　群馬縣
永島嘉三郎　京都府
杉浦儀一郎　靜岡縣
竹林誠一郎　愛媛縣
角田健三　群馬縣
（選科）魚木忠一　愛媛縣

中學部（八一名）

新順一　大阪府
尾藤敏夫　京都府
福中源太郎　京都府
橋本吉辰　廣島縣
堀江巖　大阪府
堀江武夫　京都府
林太郎　大阪府
林田喜一郎　京都府
本庄吉隆　京都府
池田松夫　島根縣
伊佐綱彥　京都府
岩城臺輔　佐賀縣
入江辰雄　京都府
石川胖　京都府
磯江道夫　京都府
泉谷喜太郎　兵庫縣
川勝衞　京都府
片岡春樹　岡山縣
木村玄之助　京都府
兒玉正雄　大阪府
小西晋吉　京都府
小西貫一　京都府
小山義孝　大阪府
倉橋多一郎　京都府
北村保太郎　京都府
黃佳禾　臺灣
黃禎祥　臺灣
小林順三　岡山縣
小林喜久雄　京都府
小立花忠勇　京都府
楠正喜　愛媛縣
松田喜一　京都府
松本勝夫　京都府
松島孝　岡山縣
三宅正已　兵庫縣
三谷公臣　和歌山縣
森實　岐阜縣
村上辰雄　京都府
村田愛治郎　京都府
長尾義夫　奈良縣
中井二郎　京都府
南部清一　京都府
南里勇　佐賀縣
永井仁一郎　京都府
名古屋義雄　大阪府
中村遙　京都府
中澤隆輔　京都府
岡田稔　愛媛縣
大萱政市　京都府
小野直養　新潟縣
奥仲壽藏　京都府
大塚正治　滋賀縣
太田芳城　京都府
大谷信之　京都府
李嘩　臺灣

盧萬德 臺灣
佐伯清 京都府
佐々木義一郎 京都府
澤田繁三郎 京都府
柴田辰雄 福井縣
柴田平治 大阪府
橋辰雄 東京府
蔡美楚 臺灣
島本進 京都府
清水勝 京都府
新堀敬一 神奈川縣
高橋秀三 京都府
高橋勝年 滋賀縣
竹西三郎 福岡縣
竹内彦次 京都府
田井英一 京都府
田原秋夫 長崎縣
友田元之助 兵庫縣
武口百百十 三重縣
谷川治次 京都府
外村鎌三 滋賀縣
鳥居悦二 京都府
豐村晴夫 山口縣
湯淺炭太郎 京都府
内牧弘 京都府
八木辰馬 愛媛縣

女學校專門學部
英文科（一九名）

濱口槇 京都府
福地つろ 東京府
古屋靜子 山梨縣
冬廣幾 京都府
今井信 香川縣
今村綾 京都府
井上須美 滋賀縣
河合いま 京都府
小北初枝 北海道
久保フミ 香川縣
松本敏子 靜岡縣
森玉枝 石川縣
西條信子 大阪府
清水ツルヱ 兵庫縣
高垣よし 京都府
竹中ウタ 京都府
田村久子 京都府
山添通子 京都府
（選科）伊藤美津子 靜岡縣

女學校專門學部
家政科（二一名）

秋田文子 岡山縣
船石福子 岡山縣
八馬壽江 兵庫縣
服部コト 京都府
林カズ 大阪府
板谷丈 兵庫縣
伊藤由子 三重縣
近藤みち 兵庫縣
松田靜子 京都府
村上ミサヲ 廣島縣
武藤博子 岡山縣
野間たえ 京都府
佐伯七五三 愛媛縣
杉浦富美 廣島縣
武久昌子 京都府
藥師川菊子 京都府
玉川八重子 新潟縣
吉川裕子 岡山縣
吉川うた 兵庫縣
木村道子 宮城縣
（選科）今井靜子 京都府

女學校普通學部（三八名）

足利喜久 京都府
原田文子 京都府
橋本ミヨ 兵庫縣
林磯 京都府
今井義 香川縣
井上順 滋賀縣
加藤鐵子 愛知縣
加藤ツノヱ 福岡縣
萱場榮 東京府
越野菅子 和歌山縣
京谷ふく 京都府
登井千代子 京都府
森節 滋賀縣
永井秋野 京都府
中川萬壽美 京都府
中堀喜代 京都府
中西律 三重縣
西池郁子 京都府
西野圓 京都府
西村かなる 京都府
西山愛子 京都府
野村鎭子 愛知縣
小川佐代 京都府
大北美代 奈良縣
奥村春 京都府
佐々木光枝 京都府
下橋薫 京都府
末光倭文子 愛媛縣
菅野克 京都府
鈴木とし子 兵庫縣
瀧野鈴子 和歌山縣
田村達子 京都府
津田知惠 京都府
梅田ひろ 京都府
山田八枝 京都府
山岡福 京都府
山本トミヨ 山口縣
柳ノブ 長崎縣

大正十年度寄附金品表

○寄附金

一金壹百圓　本社資本　林醇平氏
一金參萬壹千圓　本社經費　同志社維持會
一金參千圓　同　津下紋太郎氏
一金參千圓　同　小林正直氏
一金貳千圓　同　三宅利平氏
一金貳千圓　同　橋本喜作氏
一金壹千五拾圓　同　上野榮三郎氏
一金壹千圓　同　辛卯學友會無名氏
一金五百圓　同　明治廿五年度卒業同期生有志
一金貳百圓　同　大澤徳太郎氏
一金參拾圓　同　無名氏
一金拾圓　同　無名氏
一金九百貳拾五圓　器具室建築費　大學學友會
一金壹百圓　大學資本　大倉冝範氏
一金五拾圓　同　杉本勇治氏
一金貳百圓　大學擴張費　林源十郎氏
一金壹千圓　法學部圖書費　三宅利平氏
一金壹百七拾參圓七拾貳錢　同　大正八年度大學豫科生
一金壹百圓　文學部圖書費　有島武郎氏
一金五拾圓　神學部資本　喜多謙一氏
一金參拾圓　神學部獎學資本　千田民衞氏

一金壹百七拾壹圓八拾六錢　神學部獎學資本　デビス博士建碑委員
一金五百圓　神學部圖書費　高木貞衞氏
一金壹百貳拾七圓七拾七錢　同　米國同胞教會傳道會社
一金六百圓　神學部教科書費　米國傳道會社
一金貳千壹百貳拾四圓九拾八錢　神學部獎學金　同上
一金七百貳拾參圓五拾六錢　神學部俸給　米國傳道會社
一金壹千貳百圓　同　米國同胞教會傳道會社
一金壹千圓　神學部留學費　大澤徳太郎氏
一金七拾圓　中學資本　大正九年度中學卒業生
一金貳萬六千六百壹圓五拾錢　中學校舍建築費　下郷妙子外五百二十五名
一金五拾圓　女學校資本（家政科）　大正十年度女學校專門學部家政科卒業生
一金貳百六圓七拾壹錢　女學校　イー、デー、ルーミス氏
一金貳千圓　女學校經費　太平洋婦人傳道會
一金九百七拾五圓　女學校俸給　同上
一金壹百圓　女學校圖書費　伊庭菊次郎氏
一金貳千五百六拾參圓　（法學部文學部指定）校友發起大學基本金
一金五拾七圓　（神學部指定）　同上
一金參拾五圓　（神學部指定）　有志寄附大學基本金

計金八萬五千六百貳拾五圓拾錢也

○本社へ寄附物品

一、アメリカ棕梠苗木　一本　名出哲一郎氏

一、國士の聲前編　一部　有田音松氏

○中學博物室へ寄附物品

一、黑貂二頭附剝製標本一臺　松橋新七氏
一、極樂鳥一尾　森下貞太郎氏
一、蟻ノ塔標本一個　同　氏
一、獵虎一頭剝製標本一臺　中學二年生一同
一、南洋木材標本五片　中島重武氏
一、鉛鑛一塊　足利惇麿氏
一、外國産蟹類標本二十餘個　平瀨與一郎氏
一、銀葉一個　周再賜氏
一、アンモン貝化石一個　平瀨四郎氏

○圖書館へ寄贈圖書

（一）和漢書之部

一主稅局第四十七回統計年報告書　大藏省主稅局
一金融事項參考書　外四册　大藏省理財局
一海軍省醫務局（第三十三次報告）　海軍省醫務局
一朝鮮古蹟（七）　外一册　朝鮮總督府
一大正九年大阪稅務監督局統計書　大阪稅務監督局
一大正八年大阪市統計書　大阪市役所
一京都第十二回統計書　京都市役所
一大正七、八年神戸市統計書　神戸市役所
一和歌山史要　和歌山市役所
一貿易要覽　長崎稅關

一關東洲土地制度論　外二册　南滿洲鐵道株式會社
一大正十一年京都商工人名錄　京都商業會議所
一東京天文臺年報（第四號）　東京天文臺
一大正十一年地方行政年鑑　帝國地方行政學會
一株式會社資本調　外七册　日本興業銀行
一邦文圖書分類目錄　東亞經濟調查局
一戰爭はしないで濟む　外一册　國際聯盟協會
一現代人の藝術　民衆文化協會
一社會心理學　歸一協會
一日米船鐵交換同盟史　日米船鐵交換同盟會
一優良町村便覽　中央報德會
一淨土眞宗　內外出版株式會社
一鐘淵紡績株式會社從業員待遇法　鐘淵紡績株式會社營業部
一友千鳥　友禪史會事務所
一政治一新論　ダイヤモンド社
一株式年鑑　野村商店調查部
一高野山千五年史　高野山金剛峯寺
一滿鐵圖書館報（第一卷第三號）　外二册　滿鐵大連圖書館
一帝國憲法論　外一册　大正二年度舊豫科第二年級A組
一新時代の光明　安部清藏氏
一勞資問題解決　外一册　秋守常太郎氏
一新性慾哲學　外二册　青柳有美氏
一帝國最初の植民地臺灣の現況　張洪蚶氏
一宗教的社會觀　外一册　海老澤亮氏

一國體論　外一册　江木衷氏
一委付ノ性質竝ニ其効ヲ論ズ　藤本幸太郎氏
一會計監査　藤田正氏
一近代文學　外八十四册　橋本隆一氏
一滿蒙紹介　早川千吉郎氏
一銀行の建築と其設備　廣岡久右衞門氏
一保建衞生一日二食論　廣瀨源之助氏
一幻影と夜曲　外一册　飯義壽氏
一ミル自叙傳　石田憲次氏
一最新日本歷史解釋　石川胖氏
一ルナン耶蘇傳　外二十三册　欠下テル子氏
一代數學　加藤壽氏
一無明　加藤一夫氏
一吉備百首　木山巖太郎氏
一二人の苦行者　小山義孝氏
一ダンテの研究　黑田正利氏
一藪雀　前田珍男子氏
一日本鐵道史(上中下)　元田肇氏
一春城句集　室賀文武氏
一純眞なる青年の手記　永井一雄氏
一經濟論叢(八卷)　外八册　永田幸也氏
一靈交と生活　外二册　中村均氏
一野聖乞食桃水　中西亘一氏
一後藤點　四五經書　西村宗三郎氏

一滿蒙の現況　大淵三樹氏
一マルチンルーテル　緒方建造氏
一南滿洲鐵道旅行案內　外五册　大佐三四五氏
一愛の故鄉へ　納三治氏
一腦力集中法及其休養　李嶂氏
一物理學問題精解　外二十五册　櫻井忠一氏
一經濟原論　瀨谷佐次郎氏
一英文學研究　外一册　柴田平治氏
一生命の一元論　柴田舜太郎氏
一原始生命論　鈴木傳七氏
一民法原理　外一册　砂川千秋氏
一ゴオルスワーヂー社會劇全集(下卷)　高橋源次氏
一新島襄先生傳　外四册　高橋元一郎氏
一印紙稅法賣買仕切書要義　高橋新一氏
一フリー、メーソンリーの研究　高木庄太郎氏
一滿蒙ノ皮革　外二十九册　玉木道之助氏
一ブラウニング、サウル　外一册　谷口榮之助氏
一京都及附近修學旅行案內　寺島昌爾氏
一法學通論　外十册　富本武則氏
一內村全集　外一册　匿名氏
一化學計算問題集　外一册　都竹泰雄氏
一基督教修養一班　露無文治氏
一史徵墨寶(三帙)　宇田弘氏
一國民經濟講話　山縣久子氏

一身神保建訓　外二冊　　山本健一氏

一植民地問題私見　　山本美越乃氏

一經濟學の基礎概念　外一冊　　山口正太郎氏

一全き生活　　山中爲三氏

一論理學の根本問題　外三十五冊　　故山本龜市氏

（二）洋書之部

dentification of the important Japanese woods by anatomical Characters　外一冊　　臺灣總督府殖産局林業試驗場

An introduction to the history of Japan　　大和會

Doshisha Memories　　大正十年度同志社大學法學部卒業生

As Jesus passed by　外二十八冊　　イー、シー、カープ氏

International law　　市川克己氏

Testimony, Exhibits, Report and Index vol I., III., V., VI., VIII.,　　川島亘一氏

Gospel of St. John　外二十四冊　　デイ、ダブリユー、ラーネツド氏

The book of enoch　外二十冊　　大賀壽吉氏

The Imperial Gazetteer of India 26 vols　　大石七郎氏

Recta Latini Graecique Sermonis Pronutiatio　　田中秀夫氏

Interesting Vanila　外四冊　　富本武則氏

The spirit of America　外四十冊　　故山本龜市氏

Boletin general de la Real Y Pontificia Universidad de Santo Tomas (1920—1921)　　無名氏

China. Bde 4　外百三十四冊　　河原林檉一郎氏

○女學校へ寄贈書籍

一日本詩集　外十四冊（價格三拾一圓餘）　　大正九年度女學校専門學部英文科卒業生

一日本埴輪圖集（上下）（價格五拾四圓）　　大正十年度女學校専門學部英文科卒業生

一日本歷史圖錄（上下）（價格八拾圓）　　大正十年度女學校普通學部卒業生

一大增補大日本人名辭書　外六冊（價格五拾壹圓餘）　　大正九年度女學校普通學部卒業生

Great Pictures by great Painters（價格二拾一圓）　　大正七年度女學校専門學部英文科卒業生

一南歐遊記　一布臘紀行　　濱田耕作氏

一詭辨と其研究　外一冊　　松田道子

一社會事業要覽　　林福子

一高嶺秀夫先生傳　　高嶺秀夫先生記念事業會

○女學校へ寄贈品

一櫻樹（染井吉野）二十五本（價格金百二十四圓餘）　　ミス、エム、エフ、デントン

一花瓶　二個　　同氏

校友發起 同志社大學基本金收納金内譯 (イロハ順)

(自大正十年四月一日至大正十一年三月卅一日)

法學部及文學部

一金四百圓　若松兎三郎氏
一金壹百七拾圓　河原林檉一郎氏
一金拾圓　龜山昇氏
一金五圓　菅禮太郎氏
一金六百圓　田中助左衛門氏
一金貳拾四圓　竹林熊彦氏
一金壹千貳百圓　中瀬古六郎氏
一金六拾圓　赤井直吉氏
一金參拾圓　青柳猛氏
一金五拾圓　四方素氏
一金四圓　鹽瀬千治氏
一金拾圓　森山寅之助氏

計金貳千五百六拾參圓也

神學部

一金貳拾圓　和田梓之介氏
一金拾壹圓　加藤延年氏
一金八圓　山口金作氏
一金拾八圓　安部清藏氏

計金五拾七圓也

合計金貳千六百貳拾圓也

有志寄附 同志社大學基本金收納金内譯 (イロハ順)

(自大正十年四月一日至大正十一年三月卅一日)

神學部

一金五圓　田中内記氏
一金參拾圓　永井貫一氏

計金參拾五圓也

同志社中學校舍建築費寄附收納金内譯 (拂込順)

(大正十年七月十二日ヨリ大正十一年三月卅一日迄ニ收納セル金額ヲ揭載ス)

一金壹千圓　下鄉妙子氏
一金五百圓　六鹿淸治氏
一金五百圓　松見平次郎氏
一金壹百圓　濱田五郎氏
一金五百圓　吉田羊治郎氏
一金貳百圓　宿田久太郎氏
一金參百圓　安藤政次郎氏
一金拾五圓　山口亮廣氏
一金壹百圓　片岡道太氏

一金拾五圓 石田吉太郎氏
一金貳千圓 柳慶藏氏
一金參百圓 大井五十吉氏
一金壹百圓 松島藤夫氏
一金貳百圓 下村彦兵衛氏
一金五百圓 山中正吉氏
一金五拾圓 東枝吉太郎氏
一金拾圓 深井こま氏
一金拾圓 横川貞氏
一金拾圓 北尾楢藏氏
一金貳百圓 北村熊太郎氏
一金貳拾圓 水内數之助氏
一金貳百圓 吳錦堂氏
一金五拾圓 蒲田喜代松氏
一金貳拾圓 山口善次郎氏
一金五拾圓（金壹百圓ノ內） 白木伸三氏
一金參拾圓 齊之內信次郎氏
一金五圓 石井源藏氏
一金壹百圓 望月富三氏
一金壹百圓 今西治三郎氏
一金五百圓 伊吹平助氏
一金參百圓 伊吹豐次郎氏
一金參百圓 竹內千代氏
一金五拾圓 水內貞太郎氏

一金拾圓 堀卓次郎氏
一金五拾圓 豐村正助氏
一金拾圓 小西友吉氏
一金壹百圓 竹林久次郎氏
一金壹百圓 槌田淸次郎氏
一金拾圓 プラッシュ氏
一金貳百圓 野口庄次郎氏
一金貳拾圓 高木禎治郎氏
一金五拾圓 小倉藤作氏
一金拾圓 今村龜吉氏
一金貳拾圓 谷川兼次郎氏
一金五拾圓 大野利三郎氏
一金貳拾圓 西村九良之助氏
一金壹百圓 牧野平太郎氏
一金五拾圓 林七郎兵衛氏
一金貳百圓 新貞藏氏
一金壹百圓 山本吉治氏
一金參拾圓 小泉市次郎氏
一金五拾圓 小西繁藏氏
一金貳拾圓 皆川寛貞氏
一金拾圓 伊佐綱彦氏
一金壹百圓 有田梅松氏
一金參圓 玉置喜九四郎氏
一金參拾圓 西田與三郎氏

一金五圓 横山虎雄氏
一金貳圓 越村作太郎氏
一金貳百圓 古川審造氏
一金壹百圓 外村格二郎氏
一金壹百圓 都志太郎氏
一金貳拾圓 野村竹四郎氏
一金貳拾圓 上坊宇之助氏
一金五圓 小田六之助氏
一金參拾圓 大西常次郎氏
一金參拾圓 森本萬太郎氏
一金參拾圓 小原安之助氏
一金貳拾圓 伊吹大三郎氏
一金壹百圓 福島豐次郎氏
一金五圓 平井平吉氏
一金拾圓 小林藤三郎氏
一金拾圓 加納音四郎氏
一金拾五圓（金參拾圓ノ內） 小野鈴藏氏
一金貳拾圓 黑田千枝氏
一金拾圓 服部仙之助氏
一金拾圓 小川國氏
一金五圓 西尾拾吉氏
一金五拾圓 岡崎貞之助氏
一金五圓 松井むめ氏
一金五圓 堂本萬吉氏

一金五拾圓　伴　圭次郎氏
一金拾五圓　岩崎熊次郎氏
一金參拾圓　近藤鍬三郎氏
一金貳拾圓　北村保太郎氏
一金貳拾圓　祝部鼎　二氏
一金拾圓　松居新　藏氏
一金拾圓　西村源治郎氏
一金五圓　伊藤　定氏
一金壹百圓　谷中勘三郎氏
一金參拾圓　三野扆　平氏
一金拾圓　竹谷千　藏氏
一金拾五圓　栗田春　吾氏
一金參圓　田中順　市氏
一金拾圓（金貳拾圓ノ内）　川口平太郎氏
一金貳拾圓　三浦孝次郎氏
一金壹百圓　布浦彌三郎氏
一金參拾圓　中村永　一氏
一金五拾圓　山口又　七氏
一金參拾圓　國領定治郎氏
一金貳拾圓　金子眞太郎氏
一金五拾圓　杉山修　一氏
一金五圓　小林松之助氏
一金五圓　濱田　穰氏
一金五圓　馬場貞　二氏

一金參拾圓　佐田伊兵衛氏
一金拾圓（金五拾圓ノ内）　中西清一郎氏
一金拾圓（金貳拾五圓ノ内）　今井隆　吉氏
一金拾圓　萬保辨之助氏
一金五拾圓　山中次　郎氏
一金拾圓　廖　煥　章氏
一金貳圓　黃　郎　周氏
一金拾圓　喜多源　逸氏
一金壹百圓　喜多源治郎氏
一金七拾圓　伴　爲　吉氏
一金拾圓　服部重　直氏
一金五拾圓　木俣定　雄氏
一金貳拾圓　重久幸次郎氏
一金五圓　竹中　清氏
一金五圓　桝　嘉兵衛氏
一金參百圓　早瀨松次郎氏
一金參拾圓　新井金次郎氏
一金五圓　藤木榮太郎氏
一金五拾圓　南部丈　助氏
一金五拾圓　三上眞　吾氏
一金貳圓　田中亟　二氏
一金五圓　今井瀨　平氏
一金拾圓　小池恒太郎氏
一金拾圓　奥島藤三郎氏

一金五拾圓　浮田源　吉氏
一金拾圓　渡邊傳　吉氏
一金拾圓　和田萬　七氏
一金五拾圓　山根宗太郎氏
一金貳拾圓　中川由太郎氏
一金拾圓　松山玉　松氏
一金五拾圓　梶井　盛氏
一金拾圓　都馬美　喜氏
一金五圓　川上長治郎氏
一金拾圓　服部忠　直氏
一金五拾圓　吉田宗兵衛氏
一金五圓　杉本タ　ネ氏
一金拾圓　小澤五　郎氏
一金拾圓　布施藤代松氏
一金貳拾圓　岡本平　造氏
一金拾圓　松本爲治郎氏
一金參拾圓　浮田重三郎氏
一金貳百圓　眞田　榮氏
一金五圓　秋山勇　吉氏
一金五拾圓　杉本重　吉氏
一金五圓　小立花ふ　く氏
一金貳拾五圓　川島益太郎氏
一金拾圓　中澤徹次郎氏
一金五圓　岡本貞　一氏

一金拾五圓五拾錢　中學一年級有志
一金五拾圓　神谷謙三氏
一金拾圓　岡四郎氏
一金拾圓　中川愛子氏
一金五拾圓　小木曾國三郎氏
一金拾圓　田原丈松氏
一金參拾圓　佐竹敎雄氏
一金拾圓　岡利吉氏
一金拾圓　竹內愛藏氏
一金貳拾圓　藤田彌三八氏
一金貳拾圓　溝川傳三氏
一金貳拾圓　川島勝治郎氏
一金拾圓　南里治子氏
一金壹百圓　井上與兵衛氏
一金五圓　中村彥吉氏
一金貳拾圓　李直氏
一金貳拾圓　大河原エイ氏
一金貳拾圓　石本精一氏
一金五圓　宮川岩太郎氏
一金貳拾圓　孔聖學氏
一金貳拾圓　吉村國助氏
一金參百圓　川口友子氏
一金壹百圓　岡崎和助氏
一金參拾圓　尾賀伊之助氏
一金壹百圓　鶴岡龜和武氏

一金五圓　間中綱彥氏
一金拾五圓　長谷川源六氏
一金壹百圓　能勢濤太郎氏
一金拾圓　尾崎富太郎氏
一金貳拾圓　酒井虎吉氏
一金五拾圓　藤木駒吉氏
一金五拾圓　正木繁三郎氏
一金壹百圓　中川謙三氏
一金貳拾圓　竹田量之助氏
一金五拾圓　林瑞池氏
一金五拾圓　高崎夫瑳氏
一金百五拾圓　外村六兵衛氏
一金拾圓　端與佐吉氏
一金參拾圓　森貞亮氏
一金五拾圓　響田英之助氏
一金貳拾圓　奧村吉里氏
一金六拾圓　新免峰彥氏
一金貳拾圓　ダウンズ氏
一金五拾圓（金壹百圓ノ內）　金居信雄氏
一金拾圓　田中愛之助氏
一金參拾圓　林田由三郎氏
一金參拾圓　佐野ふみ氏
一金五拾圓　島田榮吉氏
一金拾圓　松田恒藏氏

一金五拾圓　佐野藤右衛門氏
一金五圓　吉田幸太郎氏
一金貳拾圓　松尾長次郎氏
一金五圓　王茂成氏
一金貳拾圓　磯江慶輔氏
一金五圓　吉田岩吉氏
一金拾圓　吉村龍藏氏
一金五拾圓　長澤幹藏氏
一金貳拾圓　西村淸一氏
一金壹百圓　守舍新兵衛氏
一金拾圓　花房重男氏
一金六拾圓　朱麗氏
一金貳拾圓　森田幾之助氏
一金參拾圓　池上嘉四郎氏
一金拾圓　浦田新之亟氏
一金貳拾圓　小谷作藏氏
一金八拾圓（金貳百圓ノ內）　長尾鬼一郎氏
一金參拾圓　澤田源次郎氏
一金拾七圓　前山仁太郎氏
一金貳拾圓　山本廣三氏
一金貳拾圓　山本美保氏
一金貳拾圓　伊藤初代氏
一金參圓　ギユリツク氏
一金五拾圓　北山小治氏

一金拾圓 田井橋治氏 林幸治郎氏
一金五拾圓 安堂伊之助氏
一金拾圓 岡田壽久氏
一金貳拾圓 久世彦五郎氏
一金參拾圓 寺尾次郎吉氏
一金參拾圓 埇田尙衞氏
一金五拾圓 井堂鶴次郎氏
一金拾圓 西村正夫氏
一金拾圓 深井半次郎氏
一金拾圓 富澤曠直氏
一金參圓（金參拾圓ノ内） 加藤延年氏
一金貳拾圓 藤本長太郎氏
一金五圓 堀規矩太郎氏
一金五圓（金拾五圓ノ内） 藤田萬右衞門氏
一金五拾圓 西村保太郎氏
一金參拾圓（金壹百圓ノ内） 鹽瀨千治氏
一金拾圓 千葉彌助氏
一金五圓 崔益煥氏
一金貳百圓 松居久右衞門氏
一金拾五圓（金參拾圓ノ内） 山本鶴藏氏
一金拾圓 井上弘文氏
一金參拾圓 伊東孝氏
一金壹百圓 尾上幸平氏

一金貳拾圓 大槻徹一氏
一金壹千圓 八馬兼介氏
一金參拾圓 山田米次郎氏
一金拾圓 島津熊三郎氏
一金貳拾圓 橋辰之助氏
一金拾圓 渡邊始氏
一金五拾圓 清水伴三郎氏
一金拾圓 吉川政吉氏
一金拾圓 中村利馨氏
一金參拾圓 山中艮太郎氏
一金五拾圓 空地忠藏氏
一金拾圓 尾藤祐元氏
一金拾五圓 室井米藏氏
一金貳拾圓 谷川啓作氏
一金拾圓 清水見證氏
一金五圓 汪修文氏
一金拾圓 相澤タメ氏
一金拾圓 飯塚和太郎氏
一金貳拾圓 水谷貞一氏
一金貳拾圓 福中鐵三郎氏
一金參拾圓 江見濱五郎氏
一金參拾圓 大賀壽吉氏
一金壹百圓 鹽野尙三氏
一金五拾圓 鹽路藤雄氏

一金五拾圓（金壹百圓ノ内） 片山當次氏
一金貳拾圓 西村末次郎氏
一金貳拾圓 西田重次郎氏
一金五圓 久下多四郎氏
一金拾圓 鹽路有氏
一金參百圓 耕山愛太郎氏
一金五圓 野村義太郎氏
一金五拾圓 西田直治郎氏
一金參圓 三谷公一氏
一金五圓 本庄スヱヨ氏
一金拾圓 大谷信清氏
一金貳拾圓 安田可壽氏
一金貳拾圓 松本辰太郎氏
一金五圓 松川健雄氏
一金壹百圓 野橋作兵衞氏
一金貳百圓 西村治兵衞氏
一金五圓 小西之則氏
一金壹百圓 田中貞雄氏
一金參拾圓 森治二郎氏
一金拾五圓 吉田忠治郎氏
一金五圓 揭縛氏
一金貳拾圓 中田丈次郎氏
一金拾圓 松宮武三氏
一金五拾圓 岸本清松氏

一金拾圓　中村孝藏氏
一金拾圓　伊藤小三郎氏
一金拾圓　飯塚敏氏
一金五百圓　牧野政吉氏
一金貳拾圓　谷川巳之助氏
一金參圓　藤田友太郎氏
一金貳拾圓　木村玄三郎氏
一金貳拾圓　池上照氏
一金拾圓　山口直次郎氏
一金貳拾圓　山中爲三氏
一金五圓　南民子氏
一金五圓　松村新之助氏
一金拾圓　平澤金之助氏
一金貳拾圓　宇津均氏
一金拾圓　小西みさ氏
一金五圓　北澤音造氏
一金拾圓　杉野松太郎氏
一金壹百圓　湯淺平吉氏
一金拾圓　渡邊規矩彦氏
一金拾圓　奥村淺次郎氏
一金拾圓　加納磯次郎氏
一金參拾圓　松井万次郎氏
一金貳拾圓　小西市兵衞氏
一金參圓　能澤須氏

一金五拾圓　清水力致氏
一金參拾圓　藤澤吉郎氏
一金壹百圓　林田喜三郎氏
一金五拾圓　尾瀧延太郎氏
一金五圓　松安彌七氏
一金參拾圓　周錫英氏
一金拾圓（金參拾圓ノ內）　津田三郎氏
一金貳拾圓　井上勝吉氏
一金貳拾圓　竹內正紀氏
一金拾圓　中村與氏
一金貳拾圓　秋間玖麿氏
一金拾圓（金參拾圓ノ內）　友田彦太郎氏
一金拾圓　小西藤吉氏
一金參圓（金拾圓ノ內）　谷口辨次郎氏
一金壹百圓　中橋和一氏
一金參拾圓　藤川市太郎氏
一金參拾圓　今岡敏氏
一金五拾圓　岡本竹吉氏
一金參拾圓　小田切善六氏
一金參拾圓　日下部大助氏
一金五圓　松田龍氏
一金拾圓　谷川梅太郎氏
一金壹百圓　山口義寛氏
一金貳拾圓　梅原信正氏

一金貳拾圓　安井才二氏
一金貳拾圓　堀豊次郎氏
一金拾圓　若林秀溪氏
一金貳圓　藤岡四郎氏
一金拾圓　高谷信一氏
一金參拾圓　仲惣三郎氏
一金五拾圓　島田治郎作氏
一金貳拾圓　北野忠治郎氏
一金拾五圓　鄭作型氏
一金拾圓　柏島金二郎氏
一金拾五圓　山本清三郎氏
一金五拾圓　一井信一氏
一金參拾圓　木村壽之助氏
一金五圓　岸田修一氏
一金五拾圓　濱口助次郎氏
一金拾圓　縄田孝市氏
一金壹百圓　四手井源次郎氏
一金五圓　西八條洪範氏
一金拾圓　石田良澄氏
一金五拾圓　水谷重三郎氏
一金壹百圓　泉谷品氏
一金貳拾圓　安田長太郎氏
一金六拾圓（金壹百圓ノ內）　水本猪之助氏
一金參拾圓　澤田久吉氏

一金拾圓　日下京平氏
一金參拾圓　橫田兵之助氏
一金六圓（金拾圓ノ內）　會澤清氏
一金八拾五圓（金百廿五圓ノ內）　鈴木吉滿氏
一金貳拾五圓　三輪源造氏
一金貳百圓　後川文藏氏
一金拾圓　內川與三郎氏
一金拾五圓　福原嘉平治氏
一金四拾圓（金五拾圓ノ內）　乘松吾三氏
一金五拾圓　松岡太助氏
一金五拾圓　小山德三郎氏
一金貳拾圓　水谷清助氏
一金參拾圓　太田吉郎氏
一金拾圓（金貳拾圓ノ內）　竹西辰一氏
一金參拾圓　吉田恒三氏
一金五圓　都筑理彥氏
一金拾圓　寺田安次郎氏
一金五拾圓　廣田金之助氏
一金五拾圓（金壹百圓ノ內）　福井大三郎氏
一金拾圓　渡邊藤七氏
一金拾圓　津村利之助氏
一金貳拾圓　井口俊三氏
一金五圓　大槻清太郎氏
一金拾圓　木村四郎氏
一金五拾圓　松田喜七郎氏
一金拾圓　出石福之助氏

一金拾圓　鳴瀧福子氏
一金壹百圓　中澤利八氏
一金參圓　松木てつ氏
一金四拾圓（金五拾圓ノ內）　奧直太郎氏
一金五拾圓　大下久三郎氏
一金貳拾圓　小山捨次郎氏
一金五圓　揚澄海氏
一金拾圓　山岡龜太郎氏
一金貳拾圓　岩城臺輔氏
一金壹千圓　石井亮三郎氏
一金壹百圓　水原琢士氏
一金拾圓　朱啓雲氏
一金壹百圓　谷嘉吉氏
一金拾圓　相見龜藏氏
一金貳拾圓　太田光太郎氏
一金五拾圓　木村謹吾氏
一金貳拾圓　竹中藤吉氏
一金五拾圓（壹百五拾圓ノ內）　葛西太助氏
一金五拾圓　柴田仁兵衛氏
一金貳百圓　辜顯榮氏
一金貳拾圓　山形熊治郎氏
一貳拾圓　中野清兵衛氏
一金五圓　富田彰氏
一金參百圓　三木佐一郎氏
一金壹百圓　小北甚之助氏
一金壹百圓　且太助氏

一金壹百圓　八木小一氏
一金五拾圓　村田喜久次郎氏・潮見久右衛門氏
一金拾五圓　梁河海氏
一金五圓　倉橋辰太郎氏
一金貳拾圓（金五拾圓ノ內）　友田素胤氏
一金壹百圓　窪山直吉氏
一金壹百圓　林茂治郎氏
一金五圓　大路ナカ氏
一金拾圓　田中金三郎氏
一金拾圓　中川益雄氏
一金拾五圓　富井靜男氏
一金五拾圓　谷山敬太郎氏
一金拾圓　鳥居彥太郎氏
一金拾圓　淺沼嘉重氏
一金五圓　島津久壽氏
一金五圓　西井義一氏
一金參拾圓　岡文六氏
一金七圓　伊丹信氏
一金五圓　近藤眞董氏
一金貳拾圓　橋本郁太氏
一金拾圓　井口猪太郎氏
一金拾八圓（金參拾圓ノ內）　石崎佐吉氏
一金貳拾圓　小出錠雄氏
一金貳拾圓　佐敷吉次郎氏
一金五圓　井上宗次氏

一金貳拾圓　青山和造氏
一金拾五圓　森村一郎氏
一金五圓　田中末之亟氏
一金拾圓　竹内房吉氏
一金五圓　室野只七氏
一金五圓　角田竹次郎氏
一金五圓　山中泰二郎氏
一金五圓　鈴木嘉光氏
一金五拾圓　村上茂助氏
一金六拾五圓　三浦一氏
一金五圓　吉川陽之助氏
一金五圓　大畑要藏氏
一金拾圓　藤木兼直氏
一金五圓　若林サト氏
一金貳拾圓　五條爲功氏
一金五圓　佐内多吉氏
一金五拾圓　新田孝太郎氏
一金五圓　龍守榮氏
一金貳拾圓　井上六郎氏
一金五圓　熊谷善之助氏
一金拾圓　寺島貫三郎氏
一金五圓　赤水尙志氏
一金拾圓　奧平安氏
一金五拾圓　青木德藏氏
一金拾圓　高野友吉氏
一金拾圓　李木印氏

一金拾圓　佐々木彌平次氏
一金貳拾五圓　南石福二郎氏
一金拾圓　小中正晴氏
一金拾五圓（金參拾圓ノ内）　藤野與惣太郎氏
一金八圓（金拾圓ノ内）　沓澤吉太郎氏
一金貳拾五圓（金壹百圓ノ内）　新町德之氏
一金拾圓　森口常太郎氏
一金貳拾圓（金五拾圓ノ内）　吉田美太郎氏
一金五拾圓　今井清明氏
一金五圓　永田光正氏
一金參拾圓　大森勇次氏
一金五圓　田村伊助氏
一金拾圓　中川貞吉氏
一金參拾圓　元持二郎氏
一金拾圓　神田榮太郎氏
一金拾圓　辻幸次郎氏
一金拾五圓　越後長九郎氏
一金拾圓　神谷重遠氏
一金貳拾圓　池應鉉氏
一金參拾圓　中堀愛作氏
一金五拾圓　林丑之助氏
一金貳拾圓　久保一郎氏
一金壹百圓　木村三郎氏
一金拾圓　勝賀瀨元氏
一金拾圓　森島武郎氏
一金七拾圓　岡本正己氏

一金拾圓　小山榮氏
一金拾圓　藤田榮三郎氏
一金拾圓　顏振聲氏
一金拾圓　勝間定治郎氏
一金壹百圓　岡本織之助氏
一金拾圓　高木幸助氏
一金拾五圓（金貳拾五圓ノ内）　西岡梅藏氏
一金參拾圓　宮本金次郎氏
一金貳百圓　中西幸太郎氏
一金貳拾圓　山本源之助氏
一金五圓　島本榮吉氏
一金貳拾圓　佐藤龜一郎氏
一金五圓　石川光一氏
一金參拾圓　池田康二氏
一金拾圓　田中力藏氏
一金拾圓　松田豊二郎氏
一金參拾圓　千房信太郎氏
一金拾圓　東田佐一郎氏
一金貳拾圓　京谷久治郎氏
一金五圓　山根由松氏
一金拾圓　水野見靜氏
一金拾圓　池田松五郎氏
一金拾圓　鈴木友作氏
一金拾圓　杉村剛氏
一金五拾圓　小泉仁左衛門氏
一金拾五圓　松本堅三郎氏

計金貳萬六千六百壹圓五拾錢也

理事氏名（就任順）

（常）ハ常務理事（資）ハ資産管理委員

「大正十一年三月三十一日現在」

- 京都市下京區五條橋東二丁目二番地
  理事會選出（內國）（社友）（常）中村榮助　大正十三年三月卅一日滿期
- 京都市上京區上切通新烏丸東入新烏丸頭町百九十三番地
  校友選出（常）伊庭菊次郎　大正十二年三月卅一日滿期
- 東京府北豐島郡高田村字高田三百四十四番地
  校友選出　安部磯雄　大正十二年三月卅一日滿期
- 東京市麴町區中六番町十番地
  理事會選出　綱島佳吉　大正十四年三月卅一日滿期
- 東京市小石川區小日向臺町一丁目七十五番地
  理事會選出（內國）（社友）新渡戸稻造　大正十四年三月卅一日滿期
- 東京市芝區高輪南町五十三番地
  理事會選出（內國）（社友）（資）上野榮三郎　大正十四年三月卅一日滿期
- 東京府北豐島郡高田村大字雜司ヶ谷村三百二十一番地
  理事會選出　麻生正藏　大正十四年三月卅一日滿期
- 京都市上京區寺町頭鞍馬口下西入上御靈馬場町廿二番戸
  校友選出（同窓會員選擧）松田道　大正十三年三月卅一日滿期
- 兵庫縣加古郡加古川町ノ內寺家町三百六十三番地
  校友選出（常）（資）三宅利平　大正十三年三月卅一日滿期
- 東京市小石川區原町百二十六番地
  校友選出（常）（資）津下紋太郎　大正十二年三月卅一日滿期
- 京都市上京區室町通出水上ル近衞町四十二番地
  校友選出　中瀨古六郎　大正十四年三月卅一日滿期
- 神戸市平野神田町二百二十七番地
  校友選出　今泉眞幸　大正十四年三月卅一日滿期
- 京都市烏丸通一條下ル龍前町五百九十番地
  理事會選出（外國）（社友）（常）ヒルトン・ペッドレー　大正十四年三月卅一日滿期
- 京都市上京區室町通上立賣下ル裏築地町八十八番地
  理事會選出（總長）海老名彈正　大正十四年三月卅一日滿期
- 大阪府泉北郡高石町大字今在家八百七十四番地
  理事會選出　橋本喜作　大正十四年三月卅一日滿期
- 東京市麻布區本村町十二番地
  理事會選出（外國）（社友）ジェー・シー・ホームス　大正十三年三月卅一日滿期
- 松山市二番町五十二番戸
  理事會選出（外國）（社友）エチ・ピー・ニウエル　大正十五年三月卅一日滿期
- 京都市上京區小山下總町三十一番地ノ一
  校友選出（常）山本美越乃　大正十五年三月卅一日滿期
- 東京府豐多摩郡澁谷町中澁谷三百八十一番地
  理事會選出　小林正直　大正十三年三月卅一日滿期
- 神戸市北野町一丁目二十四番館
  校友選出（同窓會員選擧）竹內梅　大正十三年三月卅一日滿期

監事氏名（就任順）

「大正十一年三月卅一日現在」

- 神戸市中山手通二丁目百十一番地
  原田二郎　大正十一年五月十七日滿期
- 大阪市北區松ヶ枝町五十一番地
  板原兵三郎　大正十一年五月十七日滿期

京都市上京區新北小路町六百十二番地
同　志　社

【中外印刷株式